父親・男性研究　Ⅵ

ー父親・夫・男性の基本的役割と今後の父親育児不安研究に向けてー

愛育相談所　川井　尚・安藤朗子・武島春乃・永井桃子・庄司順一
研究企画・情報部　中村　敬
愛育病院心理福祉室　小玉夕香・堤　道子
嘱託研究員　恒次欽也（愛知教育大学）・渡邉　寛（彩の子ネットワーク）
大藪　泰（早稲田大学）・馬岡清人（埼玉工業大学）
鈴木眞弓（東邦大学医学部附属大橋病院）・平岡雪雄（浦安市教育委員会）
島　智久（浦安市教育委員会）・伊藤嘉余子（埼玉大学）
山岡テイ（情報教育研究所）・木邨真美（大阪府衛生会附属診療所）
古賀浩子（大阪府東大阪子ども家庭センター）
栗原佳代子（日本歯科大学）

要　約

本研究は今年度を含め６報にわたって，育児における父親，夫，男性の基本的な役割に関して検討を行ってきた。その最終報告である。今回は，おもに①領域Ⅰ「育児を含む父子関係」，Ⅱ「家族・夫婦の関係」，Ⅲ「父親自身・男性性」及び全領域（32 項目）の合計点の得点レンジ，ネガティブ項目数の検討，②SCT 各領域ごとの反応カテゴリ（頻度）にみるポジティブ群の反応の特徴を検討した。さらに，SCT の反応特徴をネガティブ群，ポジティブ群について，父親，母親比較しながら分析し，それぞれの役割の意義について検討した。また，われわれが平成５年から６年にかけて行った父子関係研究は今回の一連の研究を補完，裏付づけるものであり有意義であった。６年間の総括としては，父（母）親，夫（妻），男（女）性性の基本的な役割・機能を見いだすことができた。また，本 SCT は臨床検査法として有用なものであり，多方面での活用が期待される。今後，これまでの研究を受けて，父親の育児不安について検討を重ねていく予定である。

キーワード：父親の役割，父性，男性性，自分の親との関係，夫婦関係，母親の役割，父親の育児不安

A Study on Paternal and Masculine Gender Role VI
- Research on basic paternal·husband·masculine gender role and for the evolutional study of child-rearing anxiety of father -

Hisashi KAWAI, Akiko ANDO, Haruno TAKESHIMA, Momoko NAGAI, Junichi SHOJI, Takashi NAKAMURA, Yuka KODAMA, Michiko TUTUMI, Kinya TUNETUGU, Yutaka WATANABE, Yasushi OOYABU, Kiyoto UMAOKA, Mayumi SUZUKI, Yukio HIRAOKA, Tomohisa SHIMA, Kayoko ITO, Tei YAMAOKA, Mami KIMURA, Hiroko YAMAUCHI, Kayoko KURIHARA

Abstract : This research has been examining the basic role of paternity, husband, and masculine gender in child-rearing for 6 years. It is the final report. In this report, we analyzed 1) the total score ranges of field Ⅰ (father and child relationship, including child-rearing), field Ⅱ (family/couple relationship), field Ⅲ (father himself/masculine gender), and total field (32items) and examined the number of negative items. 2) We defined the feature of the SCT responses in each fields of positive group based on the frequency of response category. Furthermore, we examined the significance of paternal and maternal role, comparing the SCT responses between a negative and a positive group of fathers and mothers. In addition, a series of this study was supported by the father-child relation research that we carried out from 1993 to 1994. As a result of 6-year-study, the basic role and function of paternity (maternity), husband (wife), and masculine (feminine) gender were able to be found out. Moreover, this SCT is useful as the clinical test, and its practical use in many fields will be expected. In next year, research on child-rearing anxiety of father will be examined by evolving the outcome of 6-year- study.

Keywords : paternal role, paternity, masculine gender role, relations with own parent, marital relation, maternal role, child-rearing anxiety of father

Ⅰ．研究目的

昨年度は，第一に，育児に関わると推測されるいくつかの要因に関して，パス解析による分析を行った。その際の潜在変数として，①育児，②父（母）性，③自分の親との関係，④自己像（男（女）性性を含む），⑤夫婦関係をたて，パス解析を行った。その結果，父親も母親もほぼ同様の結果で，①父（母）性は育児に影響を及ぼし，父（母）性は男（女）性性を含む自己像や夫婦関係からの影響を受ける，②自分の親との関係は父（母）性を通して間接的に育児に影響する，③夫婦関係もまた間接的に育児に影響を与えていた。

第二に，「子どもにとって私は」というSCTの回答からテキストマイニング，主成分分析，クラスタ分析の手法を通して，親たちの認識している父（母）性の導出を試みた。その結果，子どもにとって父親は，①「強く，楽しい，しかし厳しいところもあり，全体的には信頼される」男性として存在すること，子どもにとって先ず男性としての役割をとること，②「仲間，よき相談相手，理解者であり，また頼りになり支える」役割をもつこと，③子どもにとってかけがえのない存在であり，モデルともなり，そして関わり守ること，④父親は，母親に次ぐ存在として認識されていることが見出された。

一方，子どもにとって母親は，「安らぎ，安全，安心，信頼，見守り，愛情で包み，大好きで優しく，かけがえのない，甘えられ，丸ごと包み込む」という「安全性」に関わる役割に集約された。ここに父親と母親の役割の相違が明らかに認められた。

今回の報告の主眼は，①領域ⅠからⅢ及び全領域の32項目の合計点の得点レンジ，ネガティブ項目数の検討，②SCT法によって得られる回答の質的な分析を行うことである。そこから，父（母）親像，夫（妻）像，男（女）性像，親子関係の抽出を目指すこととした。その結果によって，これまでの量的分析と重ね合わせての総括的な考察と，今後，平成19年度以降の父親の育児不安研究への足がかりとなる研究の方向性を見いだすことである。

この課題に応えることが，小児に関わる保健・福祉に貢献し，且つクローズアップされている子ども虐待，父親の育児不安などの緊急且つ重要な臨床問題に有用な知見とそのための現実的な支援・援助をもたらすものと考える。そのためにこれらの研究知見に基づき，かつて我々が検討してきた母親の育児不安の研究をもとにしながら「父親の育児不安」の検討を行っていきたい。そして，最終的に育児を中心としながら家庭における父親・夫の役割を明らかにし，それに基づいた父親・夫支援を中心にその臨床的適用のための実際的な方途を提起したい。

Ⅱ．研究方法

1．調査方法

従前より報告しているようにF･SCTならびに，それの妻版にあたるM･SCTを使用した。F･SCTは32項目であり，5領域から構成されていて，その領域は，Ⅰ.育児を含む父子関係（12項目），Ⅱ.家族・夫婦関係（7項目），Ⅲ.父親自身・男性性（9項目），Ⅳ.父親自身の親子関係（2項目），Ⅴ.社会（友人・仕事）（2項目）である。また，選択肢式質問項目は1．父親（夫）の役割，2．子どもとの関わり・子育て，3．両親との関わり，4．両親の親としてのあり方，5．大事にしたい生き方，6．夫，父親としてのあり方，7．夫・父親役割（選択肢は10項目あり，そのうちの2つまで選ぶ）である。

主に東京，秋田，埼玉などの各地の幼稚園，保育所等を通して配布し，回収した。回答する際にはとくに両親が相談したり，見せ合うことなく単独に回答するように求めた。

配布数は正確につかめないところもあるがおおむね回収率は80%程度である。

2．調査対象者とその属性

調査対象はおもに，幼稚園，保育所等に通所する児をもつ親である。なお，今回分析の対象としたのは，年齢が乳幼児を有する親であり，かつ，両親がペアで回収できたもの448組である。これは全体回収数の45.5%である。ペア回収数が少ないが年齢対象外を全体から外すと63.1%がペア数となる。

対象者の属性は夫の平均年齢35.4歳（±5.7），妻33.1歳（±4.6），子どもの平均数は1.7人，夫の平均週労働時間50.7時間（±13.2），妻は33.2時間（±14.7），夫の勤務形態は主に日勤 90.3%，妻の仕事では主婦が60.9%，常勤21.3%，パート・アルバイト9.4%，自営業3.6%，休職中2.2%などであった。夫の再婚者は5.6%，妻は2.7%である。夫の両親ともに健在なのは73.8%，妻は 77.9%だった。ボランティアなどをしている夫は13.1%，妻は10.6%であり，子どもたちの中で入院経験がある家庭は34.2%，未熟児出生は9.3%，発達に遅れがあるのは3.2%（ただし，夫の回答は2.7%）であった。

3．整理方法

本報告に関わる分析方法について簡単に述べたい。

（1）SCTの回答を分類し，それを3分類（肯定的回答（＋），中立的回答（0），否定的回答（－））し，さらに各領域ごとに，また，全体の得点の合計を求めた。ただし，領域Ⅳ，Ⅴはそれぞれ2項目しかないため，得点の範囲が最大＋2 から最小－2 までなので今回の分析の対象からは外した。

（2）全体と各領域ごとに，得点順に並び替えを行い，その中から下位，すなわち，否定的得点が高いものを抽出した。

（3）全体とそれぞれの領域ごとの下位得点者のSCTの回答を一覧にした。（おおむね－2点以下）

（4）全体と各領域の得点の分布状況を父親と母親の比較検討を行い，その特徴を分析した。これに加えて，SCT32項目のネガティブな評価数の多い順に並び替え（全体），その特徴を分析した。

（5）また，ポジティブ事例群のSCT反応をコード化し，その反応の出現率を資料として提示した。この結果の読み取りによってSCTのおおよその特徴を読み取る一助とした。

（6）各回答者のSCTの回答における特徴を全体と領域ごとの事例的な質的分析を行った。

（7）父親版の下位得点者と，その妻との関係をみるために，その両者の比較検討を行った。

なお，事例の個人が同定できないように，SCT反応の本質を損なわないよう配慮した上で，反応の一部省略，削除，言い換えを行った。

上記の結果の整理方法によりSCT法への回答がポジティブあるいは，ネガティブな回答を寄せる父親像の比較や，父親と母親の相違を明らかにすることで，父親の育児不安とそれにつながることがらの分析検討を行えると考えた。

Ⅲ．結果及び考察

1．得点のレンジ（範囲）の比較検討

図1から3に父親版の，図4から6に母親版の領域ⅠからⅢの得点分布をまとめた。

（1）領域Ⅰ「育児を含む親子関係」12項目（図1と4）

この領域は12項目あるので最大＋12から最小－12までになるが，父親では最大＋12から最小－3，母親では最大＋12から最小－5までであった。最大＋12は父親では6人（1.3%），母親も同じであった。なお，負の得点をとるのは父親が全体の5人（1.1%）で，母親の13人（2.9%）を下回った。

負の得点をとるのは父親の方が少ない。育児を含む親子関係において母親の方がネガティブな傾向がやや強いことがわかる。日常的に子どもと深く関わる母親にとっては当然のことといえる。

（2）領域Ⅱ「家族・夫婦関係」7項目（図2と5）

この領域は7項目あるので最大＋7から最小－7までになるが，父親では最大＋7から最小－3，母親では最大＋7から最小－5までであった。最大＋7は父親では18人（4.0%），母親は11人（2.5%）であった。なお，負の得点をとるのは父親が14人（3.1%）で，母親の45人（10.0%）を下回った。

負の得点が母親の方が約3倍多いこと，最大得点も母親の方が小さいことは留意すべき問題である。

妻側がみている「家族・夫婦関係」に関して夫側が鈍い感度でみている，あるいは母親ほどに父親は「家族・夫婦関係」に悩んでいない，妻の方が悩みが深く，その幅が広いことを意味するものとして注目される。

（3）領域Ⅲ「父（母）親自身・男（女）性性」9項目（図3と6）

この領域は9項目あるので最大＋9から最小－9までになる。父親は最大＋9から最小－2，母親では最大＋8から最小－8までであった。最大＋9は父親では3人（0.7%）で母親と同様の＋8以上でみると20人（4.5%），母親は最大＋8が3人（0.7%）であった。なお，負の得点をとるのは父親が10人（2.2%）で，母親の36人（4.0%）を下回った。

この領域では母親に最大＋9が一人もいなかったこと，そして当然ながら，＋8以上でも母親側の方が少なく，父親側の6分の1程度にとどまっていることである。また，負の得点でも2倍弱多いことである。「父（母）親自身・男（女）性性」において女性（母親・妻）はおそらく自己肯定感の高い人が少ないこと，逆に，自己像が矮小化されている人が多いことを示すものと推測される。これは我が国の社会的なあり方，職場，家庭等における女性のあり方を現しているように思われる。

（4）全体（図7と8）

全体では32項目あるので最大＋32から最小－32までになる。父親は最大＋29から最小－6，母親では最大＋30から最小－17までであった。最大＋29は父親では1人（0.2%）で，母親は最大＋30が1人（0.2%）であった。父親と同様の＋29以上でも＋29が0人なので頻度（%）は変わらない。なお，負の得点をとるのは父親が4人（0.9%）で，母親の14人（3.1%）を下回った。

全体でも各領域の傾向をそのまま反映しており，負の得点は母親の方が多く，約3倍に達する。また，この結果をもたらすのは，母親の方が負の最大値において父親の約3倍近いことに原因があるといえる。

ところで，各領域，たとえば，領域Ⅰの父親は負の得点を示すのは6人であったのが全体では4人に減っている。この事情は，ほかの項目で正の得点を得ていれば，相対的に負の得点が減少するためである。他方，母親は，ほかの項目において正の得点を得て，負の得点を減らすことができない一群の人々がいることを示している。したがって，母親側の方がハイリスクな人々が多いと推測できるのである。そのことは設定したSCT項目に対して一貫してネガティブな回答を寄せるということであり，このSCT項目を考えるならば，母親側に育児，子どもとの関係，夫婦関係，家族関係，自分自身のことや女性性において問題を抱えているということでもある。その背景には，育児不安が母親の夫婦関係，母子関係，家族，自分自身等の思いに多くの影響を与えていることを推測させるものである。これに対して父親はある意味，母親に比べて感度が鈍く，妻に多くの役割を求めているが故に，育児不安などの問題をあまり抱えていないともいえるかもしれない。しかし，父親が，より育児や家庭生活に参加していくとき，今後，母親と同様の傾向を示すことも考えられる。

いずれにせよ，各領域，全体にわたってネガティブな回答を重ねる対象者は少なく，全体的には健全な対象者が多数を占めているといって良い。

2．SCT32項目中に占めるネガティブ項目数

（1）父親　全体　表1

表1に32項目中の反応においてネガティブ項目数の多い順から並び替えた結果を示した。「全体－1」とはSCT32項目中，ネガティブな回答の，「全体＋1」とはポジティブな回答の，「全体0」とは中立的な回答の，それぞれに判断された項目数のことである。なお，次節の表2も同様である。

サンプル番号151番は「－1」は12項目あるが，「＋1」も11項目あり，相殺されて，合計点は「－1」にとどまった。サンプル番号16番，79番は「－1」は10項目で，「0」は18項目，「＋1」が4項目にとどまったために，－6とネガティブ群の最高得点になった。また，サンプル番号37番は，「－1」は10項目もあるが，「＋1」はそれを上回る15項目あったために合計点は＋5点であった。このようにネガティブ項目が多くてもそれを相殺する，あるいはそれを上回るポジティブ項目があるために，結果的には問題なしとされる群があるということである。臨床的には一つのSCT項目の回答の異様さの故に，なんらかの心理臨床の対象となりうることを思えば，ネガティブ得点の多寡のみによって判断することは課題が残る。また，一方では，多くのネガティブな回答を寄せていても，多くのポジティブ得点を得ることによって，心理的にもバランスがとれている場合もあるだろうことにも注意を払う必要があるといえる。さらに，ネガティブな得点がある領域に偏在していないかどうかにも注意を払うべきである。反応の内容を吟味していく必要性があり，今後，我々が父親の育児不安を検討していく場合の留意事項といえる。

（2）母親　全体　表2

表2に示した母親においても個々の具体的な結果については触れないが父親と同様の知見が示された。

なお，両群共に，相殺されるには概ね，「－1」の個数が10ないし9まで待たなくてはならない事情が共通していることから，おそらくはここがカットオフポイントであり，SCT32項目中，ネガティブ項目が10以上ある場合にはそのリスクは高くなると考えられる。

3．SCT 各領域ごとの反応カテゴリ（頻度）にみるポジティブ群の反応の特徴

表3にF･SCTの回答を記号化するための反応カテゴリ表を示した。次に表4－1から表4－5に各領域に関するポジティブ群の主な反応とその頻度を記載した。このポジティブ群は図7から導き出したものであり，得点上位から約5%の21名である。ポジティブ群の反応カテゴリの中から出現率の高い反応を分析することによってポジティブ群の主な特徴を示すものとしてとらえると考えた。この分析の目的は，ポジティブ群のSCT反応の特徴をみていくことで，父性，親子関係，男性性等の質的な検討を行うことができるのではないかと考えた。今回の分析には含めなかったが対比してわかりやすくするための対照例として，ネガティブ群（4名），最頻値群（15名）も併せて掲載した。

なお，各項目の頭の数字はSCTの項目番号で，それに続く「」内はSCTの質問を示す。

（1）領域Ⅰ「育児を含む父子関係」12項目

②「子育ては」では，持論を展開38.1%，次いで，大変だが楽しい28.6%であった。

⑤「しつけ」では，教える･身につけさせる 38.1%，重要･大切23.8%だった。さらに14.3%の同率で厳しさと愛情で，親の責任・お手本であった。

⑥「子どもと私は」は，仲がよいと友達のようがそれぞれ23. 8%で並んだ。また3つの反応が14.3%の同率で並び，コミュニケーションをとり理解，信頼関係，何でも話し合える関係でありたい等であった。

⑪「私にとって子どもは」は，宝物とかけがえのない存在･守るが33.3%であった。次いで，大切19.0%，生きがい14.3%だった。

⑫「子どもが生まれてから」では，価値観･人生観42.9%が4割を超え，次いで，充実した19.0%であった。

⑭「子どもといると私は」は，安らぐ・和む・ほっとする等66.7%と3分の2を占めた。次いで，自分の子どもの頃を思い出す14.3%だった。

⑱「子どもにとって私は」は大切な存在（存在でありたい・守りたい・支えたい）28.6%，次いで，必要不可欠な宝物・頼りになる人等 23.8%であった。必要な人でありたい14.3%だった。

㉒「子どもは私を」は，頼りにしている・必要としている33.3%，次いで，父親として頼ってほしい23.8%だった。さらに，大好き19.0%で，遊び相手14.3%だった。

㉓「もしも子どもが」は，犠牲を払っても守る・相談にのる57.1%が6割弱を占めた。次いで，いなければ全く別の人生・つまらない人生14.3%だった。

㉖「子どもがいうことをきかないと」は，いいきかす・説明する・説き伏せる等 47.6%，次いで，意味・原因を考える・話し合う 38.1%である。怒ったり，叱ったりという一方的な意見は少なく，怒る・叱るは 14.3%にとどまった。

㉙「子どもの気持ち」では，大切にしよく聞いて，理解したい・くみ取りたい 52.4%が半数を超え，次いで，尊重したい28.6%，気持ちをよく考えて行動したい14.3%であった。

⑮「妻と子どもは」は，仲がよい・うまくいっている57.1%，次いで，大切な宝物・財産等14.3%であった。

子育てやしつけの面では，自分の考えやその重要性，厳しさと愛情の必要性，親としての責任が述べられた。すなわち，しつけを含む子育ては大切なことであり，愛情を持って厳しく，己の考えに沿って，というきちんとした子どもへの対応という考え方が支配的であるといえる。

子どもとの関係では，宝物，大切，生きがいであり，子どもを持つことにより，価値観や人生観の変化を受け，子どもと過ごすことは安らぎや和みを与え，子どもの存在がきわめて人生における貴重な体験を与えていることがわかった。また，子どもに万一のことがあれば守るあるいは相談する，子どもを保護するという男性性が背景にあると思われる回答が寄せられた。

子どもからみた父親は，頼りがいがあり，また，頼ってほしい，大切な，あるいは頼りがいのある存在でありたいと願い，宝であってほしい，あるいは大好きな，遊び相手である。これも子どもから保護してほしいと思われたいということで父性や男性性の持つ保護機能を示唆していると思われた。

子どもの気持ちは大切にして子どもの思いを理解することや尊重することにウエイトを置き，ひとりの人間として扱うもので，一方的な見方をしないところが特徴的である。

父親からみる妻子は仲がよいし，あるいは自分にとって大切なものである。下記に述べる家族関係の良さの表れでもある。

（2）領域Ⅱ「家族・夫婦関係」7項目

㉛「私にとって家族は」では，大切・大事な存在・宝物 52.4%，次いで，生きるのになくてはならないもの・支え，と生きがい・かけがえのないものが同率で 19.0%だった。

④「妻と私は」は，補完関係・親友・人生にパートナー・共に生きる 38.1%，変わらぬ関係・よい関係・助け合い・仲良く 33.3%だった。さらに，共通の価値観・共通の趣味 19.0%である。

㉑「妻が病気になると」では，かばう・世話する・看病・家事 33.3%，心配・困る・大変・不安 28.6%，普段の大変さを知る・母親の存在をあらためて知る 19.0%であった。

㉚「性生活」は，大切なコミュニケーション・愛情表現の一つ・お互いの理解等 42.9%，次いで，大切・大事・重要 33.3%だった。

㉜「妻とふたりでいると」は，安らぐ・楽しい・落ち着く・ほっとする等 38.1%，いつも子どものことを話す・考える 33.3%だった。

⑰「私の居場所は」は，仕事場と家庭 47.6%，家庭・家族・家 33.3%，自分のイス・たたみ一畳 14.3%だった。

⑳「家にいると」では，安らぐ・ほっとする・落ち着く・安心等 71.4%と高率であった。妻と子と一緒で幸せ・コミュニケーションがたくさんとれる等 14.3%だった。

まず，家族関係は，大切・大事な存在であり，それは生きる上で必要であり，生き甲斐，かけがえのないものとしてとらえられている。それは上で述べた子どもの存在がそうであると同様に，次の夫婦関係のあり方によっても支えられていると考えられる。

夫婦関係は，パートナーシップ，助け合う，よい関係で，時には共通の価値観を有する仲間であるという認識が支配的であった。このことは妻とともにいることは安らぎや落ち着きを与えてくれもし，コミュニケーションを図る場という認識の表れでもあろう。さらにいえば，性生活もまた，お互いを理解し，コミュニケーションを図る具体的な表現の仕方であることにより支えられてもいるのであろう。また，妻が病気になれば心配・不安でもあるが，世話をし，家事を手伝い，妻の存在を再認識させられる。

自分の居場所は仕事場と家庭であるが，このポジティブ群の父親たちは仕事場においても居場所を持ち得る，いいかえると，充実した仕事を持っているということがいえる。領域Ⅴの仕事への認識からもうかがわれるが，家庭面の充実は他方では仕事面の充実を支えている，あるいは，仕事面の充実が家庭面を支えるという相補性があるものと考えられる。

（3）領域Ⅲ「父親自身・男性性」9項目

①「子どもの頃，私は」は，活発・元気・やんちゃ・いたずらっ子 85.7%と非常に高率であった。

③「将来，私は」は，自分が悠々と・ゆっくり安定して等 28.6%，次いで，自分が人生楽しく・夢の実現等，家族でゆっくり・楽しく等，家族を守る・幸せに，の 3つの反応がいずれも 19.0%で同率であった。この項目は回答が分散する傾向にあった。

⑩「私はひとりでいると」は，夢を描く・想像する・いろいろ考える等 42.9%，次いで，愉快・楽しみ・幸せ等 23.8%だった。他方で，じっとしていられない・何していいかわからないが 14.3%みられた。

⑨「私が感情的になるのは」では，プライドを傷つけられたとき・筋が通らない・理不尽等 57.1%で半数を超え，ないが 14.3%であった。

⑯「私は男として」は，家族を守る・支える・幸せに等 66.7%と 3分の 2を占め，残りの 3分の 1が責任感・自立 33.3%だった。

㉕「困り果てたとき私は」では，妻と相談する 33.3%，次いで，もう一度原因を考える・再度試みる等 23.8%，そして，開き直る・忘れる等，友人・周りの人に相談する，自分ひとりで考える・解決する，の 3つの反応がいずれも 14.3%だった。

㉗「死ぬときは」では，幸せだった・満足して・後悔しない人生で等 38.1%，家族に迷惑・不安を与えないように 23.8%，苦しまず・痛くなく・ぽっくり等 19.0%だっ

た。さらに，家族に見守られて・自分が一番先に 14.3%だった

⑲「思いどおりにいかないと」では，原因追求・別の方法を 42.9%，がんばる・努力・工夫等 19.0%，反省する・自分の責任と思って 14.3%であった。

㉘「暴力」は，してはいけない・あってはならない・排除する等がダントツで 81.0%であった。この項目で自己や配偶者，あるいは子どもへの暴力やその肯定が語られるときはかなりの問題をかかえている可能性が高い。

父親自身は，子どもの頃は元気で，将来は安定して，あるいは楽しく，家族を守って過ごしていきたいという望みがある。

男性性は，家族を保護することや，そのベースにある責任感・自立心があげられていた。この男性性意識こそが家族を守っていこうとする基本的なものである。

ストレス場面におちいったとき，妻と相談する，あるいは再チャレンジする，他者に相談，自己解決を図る，などであり，いずれにしてもストレスへの耐性は強く，その対処法を身につけていることがうかがわれる。このストレス耐性は，家族や親子関係等に問題が生じたときにも冷静に対処していくことができる基盤であり，重要なことである。

（4）領域Ⅳ「父親自身の親子関係」2項目

⑧「母と私は」では，仲良し・うまくいっている 28.6%，次いで，できるだけコミュニケーションをとっている等，とよき理解者が同率の 23.8%であった。

㉔「父と私は」では，仲がよい・うまくいっている・よき理解者同士 38.1%，次いで，よい友人・よき師弟関係・信頼しあっている 28.6%だった。

自己の親子関係は父親でも母親でも良好であることに特徴がある。ただ，父親とは同性ということもあり，母親に比べて人生の先輩であり，友人という存在で分かり合えるものがあるといえる。これは子育てをする上で自分の父親をモデルとする根幹にあるものと考えられ注目できる。

（5）領域Ⅴ「友人・仕事」2項目

⑦「友人」は，財産・かけがえのない 61.9%で3分の2近くを占め，次いで，家族の次に重要・大切 19.0%であった。

⑬「仕事」は，生き甲斐・やりがいのあるもの 61.9%で3分の2近くを占め，次いで，なくてはならないもの・大切 14.3%だった。

友人は家族などと同様に財産，かけがえなく，あるいは大切なものであるという認識がある。ポジティブ群の特徴は自己を含めた人というものに尊厳を持ち，思いやりを持っていることにあるように思う。

仕事に充実感を抱いているものが多く，上で述べたようにこれが家庭や妻子，あるいは父親として男性として重要なものである。

なお，これらの一連の分析はポジティブ群に特徴的であるかどうかであるが，今報告では詳細を省いているけれども，全体の得点が最頻値にある群の一部の父親の反応とはかなり異なっている（表4－1から5参照）。もちろん，ネガティブ群とも異なっていて，上に述べた事柄は，ポジティブ群に特徴的な反応の傾向を示しているといってよいと思う。今後，最頻値にある群とネガティブ群とも比較し詳細な検討を行っていきたい。

また，本節の分析は，各領域の項目の頻度の高い反応から見た特徴の抽出であるから，ひとりの父親がそのようであるというわけではなく，一般的なポジティブ群の傾向を読み取ったということである。そうした点での限界がある。そこで次節では事例的検討を行う。

4．SCTの回答からみた父親・夫・男性像の検討ー母親・妻・女性像との比較を含めて

各回答の頭の数字はSCTの項目番号で，それに続く「」内はSCTの質問，rej.は無回答（回答拒否）を示す。

また，「・」のあとの番号は事例番号を示し（）内は得点である。

（1）領域Ⅰ「育児を含む親子関係」12項目

a)－1　父親　ネガティブ

・4番（－3）

②「子育ては」つらいです。大変です ⑤「しつけ」はけじめ ⑥「子どもと私は」仲が悪いです ⑪「私にとって子どもは」子どもです ⑫「子どもが生まれてから」大変です ⑭「子どもといると私は」疲れます ⑮「妻と子どもは」やっかい者です ⑱「子どもにとって私は」父親です ㉒「子どもは私を」 rej. ㉓「もしも子どもが」rej. ㉖「子どもが言うことをきかないと」おこります ㉙「子どもの気持ち」はわかりません

この父親は回答拒否が2項目あり，子どもとの関係において，つきはなしたところがある。一方的に子育ての大変さを訴え，子どもの気持ちを察し得ない，あるいは察しようとしていない。この一連のことが子どもとの関係を悪くしている。そして，妻子は「やっかいものである」という言い方は拒否的でさえある。ここには子どもを持つ，あるいは子どもと関わることの親の率直な喜びや楽しさがない。こうした父親のあり方は子どもへのネグレクトが想像される。

・99番（－2）

②「子育ては」ママにまかせる。⑤「しつけ」ママが向いてる。⑥「子どもと私は」ライバルである。⑪「私にとって子どもは」反面教師である。⑫「子どもが生まれてから」大変になった。⑭「子どもといると私は」心がなごむ。⑮「妻と子どもは」本当に仲が良い。⑱「子

どもにとって私は」無口だと思われている。㉒「子どもは私を」尊敬していない。㉓「もしも子どもが」ぶさいくだったら悲しい。㉖「子どもが言うことをきかないと」頭にくる。㉙「子どもの気持ち」は難しい。

この父親は上記4番の父親に比べては多少，ポジティブな関係もうかがわれるが，一部，母親への育児の押しつけが認められるようであり，それが無関心からくるのか，モラルハラスメントのような妻との関係からくるのか，検討に値する。

他方，子どもとの関係は「ライバル」「反面教師」と対立的であり，そのことから子どもから尊敬されていないと自覚するのだろう。大人の男性性からくる子どものモデルとなるようなところが認められず，大人になりきれない子どもっぽさが感じられる事例である。

この2事例だけであるが，子どもとの心的距離感が遠いのが共通の特徴である。

a)－2　父親　ポジティブ

・51番（＋12）

②「子育ては」夫婦協力しあい，楽しく行っていくつもりです。また子育ては生き甲斐であると思います。⑤「しつけ」とは，子供が社会生活を行っていく上でのベースとなる教育であると思います。⑥「子どもと私は」一緒によく遊びに出かけます。将来共通の趣味が持てたらと思います。⑪「私にとって子どもは」宝物です。⑫「子どもが生まれてから」生活，人生面でより責任を感じるようになりました。⑭「子どもといると私は」楽しいです。人生の幸せを感じます。⑮「妻と子どもは」よく友達と一緒に図書館や博物館に出かけます。妻と子どもは，そこで色々経験した話を私にしてくれます。⑱「子どもにとって私は」父親であり友達です。3歳の息子にとってパパは何でも希望をかなえる人のようです。㉒「子どもは私を」自分の言う事を何でも聞き入れてくれる家来と思っているようです。㉓「もしも子どもが」授からなかったら人生観は半減してしまうと思います。子は宝です。㉖「子どもが言うことをきかないと」人はすぐ怒る。怒る前になぜ言う事を聞かないのか考えてみることが大切と思います。㉙「子どもの気持ち」を考えて親が行動することが重要であると考えます。子どもは立派な考えを持った人間です。

a)－1 でのべた父親と比べて明らかに，妻や，子どもとの関係の良さや，家庭内のコミュニケーションがよくとられていることなどがエピソードを持って語られるとともに，子どもの存在は，存在していることだけで十分な価値があることや一人の人間としてとらえる等，家族のメンバーへのポジティブな認識を基にして家族関係が順調であることがうかがえる。育児観，しつけ観において子どもの社会化を促す父親としての機能をふまえた認識があるといえる。

・62番（＋12）

②「子育ては」夫婦共に愛情をもって接する外はないと思います。⑤「しつけ」は親としておしつけるのではなく，子どもに理解できる様説明をし，納得の上身につけさせる様にしています。⑥「子どもと私は」休日には，子供は日曜学校へ，私と妻は礼拝に行きます。家族にとっても良い愛の環境を作ります。⑪「私にとって子どもは」宝であると同時に，色々な事を教えてくれる。心の師でもあります。⑫「子どもが生まれてから」家の中に花が咲いた様に明るい家庭になっています。⑭「子どもといると私は」とても心が和らぎます。そしていつまでもこうして一緒に遊んでいられたら…と思う事も良くあります。⑮「妻と子どもは」宝であり良き理解者です。⑱「子どもにとって私は」とても良い遊び相手の様です。又自分を最も愛してくれている人だと思っている様です。（最も妻にはかないませんが…）㉒「子どもは私を」とても愛してくれています。夫婦のいさかいの時も小さい心の中でとても心配し両親の仲立ちをしてくれるのも子どもです。㉓「もしも子どもが」より以上の成長を望む時，できるだけの事は実現させてやりたい，又それができる自分でありたい。㉖「子どもが言うことをきかないと」一瞬，腹の立つこともありますが，子どもが私の言う事が理解できていないからだと思い，できるだけ話す様にしています。㉙「子どもの気持ち」は大切にしたいもの！どんなに小さくとも彼らなりに自分の考えをもっている。

51番のポジティブ事例と同様に子どもとの関係の良さがうかがわれる。とりわけ子どもを一人の人としてみるように心がけていることがわかる。夫婦関係や父子関係においてポジティブな感情の流れが根底にあり，それが家族の関係を支えていることがうかがわれる事例である。なお，「子どもは，色々な事を教えてくれる。心の師」であり，「夫婦のいさかいの時も小さい心の中でとても心配し両親の仲立ちをしてくれる」という子どもからの両親への働き，家庭内での子どもの機能が述べられていることは注目に値する。

この領域ではネガティブな回答を寄せる父親が対子ども関係において貧弱であること，ときには敵対的な関係になる。ポジティブな回答を寄せる父親は，子どもとの関係が日常生活レベルでの交流を通して形成されている一方で，子どもを一人の人間としてとらえようとしていること，子どもの機能についてふれられている点で特徴的であった。また，育児や子育てに対して妻任せではない積極性が認められた。

b)－1　母親　ネガティブ

・77番（－5）

②「子育ては」おもしろい楽しいとは思えない　⑤「しつけ」をするってつらい　勝手に覚えてくれればいいのに‥‥⑥「子どもと私は」何かが足りない　⑪「私にと

って子どもは」なぜ欲しいと思ったんだろう　⑫「子どもが生まれてから」しんどい事ばかり　⑭「子どもといると私は」イライライライラ‥‥⑮「夫と子どもは」とっても仲良しで楽しそう　⑱「子どもにとって私は」愛情を求める対象㉒「子どもは私を」こわがっているかも‥‥㉓「もしも子どもが」病気になったり，死んだりしたら私は悲しむだろうか㉖「子どもが言うことをきかないと」きれる㉙「子どもの気持ち」がわかっているのに受け止めてあげられない

この母親の事例は子どもとは楽しくなく，しんどく，いらいら，気持ちがわかっても受け止められないといった育児困難を訴えている。これを除けば子どもは愛情を自分に求めてくる存在であり，子どもの病気を悲しむ母親らしさを持った人でもある。ただし，一連の回答は育児への疲労感を漂わせるものであるから，何らかの支援がなければ育児放棄しかねないように思われる。夫と子どもの関係は良好のようであるが，おそらく，妻にとっては夫が子育ての援助者となっていないという認識があるものと推察される。

・174番（−4）

②「子育ては」苦しい。⑤「しつけ」に関しては厳しすぎだといわれる。⑥「子どもと私は」もっと関係が良くなるといい。⑪「私にとって子どもは」いなかったら楽なのかな。⑫「子どもが生まれてから」自分の時間もお金も何も私のものはなくなった。⑭「子どもといると私は」楽しくない。苦しい。⑮「夫と子どもは」仲が良い（？）⑱「子どもにとって私は」上の子は鬼と思っているかも。下の子はお世話係と思っている。㉒「子どもは私を」好きじゃないと思う。㉓「もしも子どもが」死んでしまったらどう思うだろう。㉖「子どもが言うことをきかないと」感情のコントロールができずに手や足も出て精神的においつめる。㉙「子どもの気持ち」をわかっていない親だと思う。

子どもとの関係がよくなることを願いつつ，実際にはそのようになれず，子どもにも好かれておらず，そのこともあってか自分の時間も何もなく，子どもの存在をなければとも思う，こうした育児ストレスを抱えてどのように対応して良いか分からなくなっているようである。母親の育児不安を典型的に表した回答である。この事例でも夫が妻の子育ての支援者になっていない可能性がある。

b)−2　母親　ポジティブ

・14番（＋12）

②「子育ては」大変ですが，楽しくもあります。⑤「しつけ」は，家庭ですることだと思っています。⑥「子どもと私は」とても仲よしです。⑪「私にとって子どもは」宝物です。⑫「子どもが生まれてから」いろいろなことがかわりましたが，又，いろいろ勉強させられます。⑭「子どもといると私は」とても幸せです。⑮「夫と子どもは」私にとって大切な人です。⑱「子どもにとって私は」楽しい母でありたいと思っています。㉒「子どもは私を」大好きです。㉓「もしも子どもが」先に死ぬことがあったら，いったい私はどうなるのだろう？㉖「子どもが言うことをきかないと」ちゃんと話して，わかってもらう様努力します。㉙「子どもの気持ち」は，少しでも多くきき入れながら，いろいろなことをしていきたいと思っています。

この事例は，子どもが自分にとって大事な存在であると共に，母子間の関係が良好であることや，子どもの気持ちを大切にする姿勢を示している。

・22番（＋12）

②「子育ては」とても楽しませてくれていて子供に感謝したいです。⑤「しつけ」は厳しく人に迷惑をかけない様にと教えています。⑥「子どもと私は」良い関係でいると思います。⑪「私にとって子どもは」宝物です。⑫「子どもが生まれてから」忍耐力，体力がつきました。⑭「子どもといると私は」元気になれます。⑮「夫と子どもは」良く一緒に出かけています。⑱「子どもにとって私は」おもしろいママです。㉒「子どもは私を」大切にしてくれています。㉓「もしも子どもが」いじめにあったら真剣に取りくみます。㉖「子どもが言うことをきかないと」説明します。㉙「子どもの気持ち」は，分かりたいと常日頃努力しているつもりです。

この事例も子どもとの関係の良さを示していると共に，子どものことを一方的に決めつけるということはなく，常に，子どもを理解しようとしつつ，子どもの目線にあわせた育児を真剣に考えていることが分かる。

ネガティブな母親は子どもとの関係が悪いだけでなく，子育てに困難を感じており，そのことで混乱している。ポジティブな母親は順調な子育てと，子どもを大切に思う気持ち，子どもの気持ちを大事にする姿勢がうかがわれた。

この領域でのネガティブな父親と母親の相違は子どもとの心的距離感の違いであるように思われる。母親は子どもとの関係に巻き込まれており，父親は自分の枠外に子どもを引き離しておこうとしているようである。

また，ポジティブな群では，母親の役割が子どもを保護し，養育する関係であって，あくまでも母と子の関係として捉えられているのに対して，父親は父と子の関係のみならず，人間対人間という関係のあり方を目指している点で，注目される。

ポジティブな父親と母親たちは子どもの人格を認めること，子どもが元気を与えてくれること，そして，互いに父親は母子関係，母親は父子関係の良さをそれぞれ指摘している。つまり，彼らの伴侶もまた，よい子ども関係を築いていることが，それぞれの子どもとの関係をよくしているように思われる。

（2）領域Ⅱ「家族・夫婦関係」7項目

a)－1　父親　ネガティブ

・167番（－3）

④「妻と私は」夫婦です。⑰「私の居場所は」いまありません。⑳「家にいると」落ちつく場所がありません。㉑「妻が病気になると」たいへんです。㉚「性生活」rej. ㉛「私にとって家族は」なんでしょう。㉜「妻とふたりでいると」妻は私に頼るばかりで，私の気持ちをおしはかったり，支えるということはできないようです。

この夫婦関係は，夫側が妻に理解を求め，それが得られないことからくる夫婦関係の悪さを示しているようである。そのせいか，家庭というもののあり方に疑念を抱き，どこかしっくりこないという思いもあり，その結果が招くものとして家庭での居場所のなさが強調されている。

・123番（－2）

④「妻と私は」ごぶさたです　⑰「私の居場所は」ありません　⑳「家にいると」ゴロゴロします㉑「妻が病気になると」ムリばかりしています㉚「性生活」ごぶさたです　㉛「私にとって家族は」大切です　㉜「妻とふたりでいると」ちょっとさびしいです

この事例は，夫婦関係にとても距離感があり共にいるという感覚に乏しい。その結果，夫婦関係そのものが成立していない家庭であり，こうした夫婦関係の中で育てられる子どもは，母親側がよほどしっかりしていないと厳しい状況におかれる可能性がある。

・16番（－2）

④「妻と私は」rej.　⑰「私の居場所は」あまりない。⑳「家にいると」つかれる。㉑「妻が病気になると」たいへん。㉚「性生活」不満。㉛「私にとって家族は」rej. ㉜「妻とふたりでいると」 rej.

この事例は，夫婦関係や家族に関してほぼネガティブあるいは回避（rej. が3項目）しており，家族関係の形成不全が疑われる。

これらネガティブ3事例はともに家庭そのものが形成不全，あるいは機能不全を起こしているもので，こうした家庭環境では子どもの健全な発達は望みにくいものであろう。

a)－2　父親　ポジティブ

・23番（＋7）

④「妻と私は」人生のパートナーとして一番の理解者として助け合いお互いの協力の基，豊かな人生を送りたいと願っています。⑰「私の居場所は」家庭であり職場であり日本であり地球人であるという考えで生活したいと思っています。⑳「家にいると」できる限り家族とのコミュニケーションを取りお互いの理解を深める努力をします。㉑「妻が病気になると」改めて予防の大切さを痛感いたします。治療はもちろんですが今後のためにも病気にならない日々の努力を検討します。㉚「性生活」は必要なことであると同時に相手を想う心がそれ以上に大切なことだと思います。㉛「私にとって家族は」人生を生きるのになくてはならないものであり仕事にとっても一番の支えとなるものです。㉜「妻とふたりでいると」子供の事が一番の話題になります。又その話し合いによりお互いの理解や考え方の深さがお互いとても勉強になっています。

この事例は，夫婦関係を維持し，発展させていきたいという思いが伝わる。そのために相互のコミュニケーションを大事にしており（「性生活」の回答に端的に表れている），それも夫婦間にとどまらず，子どもへも及んでいる。この夫婦間の安定度がよい家庭機能をもたらしている。家庭そのものの意義を良く理解している。

・39番（＋7）

④「妻と私は」学生時代からの長いつきあいでもありお互いに同様な価値観を共有できていると思う。⑰「私の居場所は」多い。家庭内における存在感は大きく，リーダーシップを発揮できている。⑳「家にいると」休める。ストレスから解放され，伸び伸びできる。家族が一緒に居るという安らぎも感じられる。㉑「妻が病気になると」できる限りの看病をし，自分ができる精一杯の努力をする。子どもの面倒は，できる限り自分でやる。㉚「性生活」は必要なものである。愛情表現の一つであると考えている。㉛「私にとって家族は」掛け替えのないもの。守るべきもの。自分に幸せを感じさせてくれるもの。身体の一部のようなもの。㉜「妻とふたりでいると」昔のように恋人にはなれないが，信頼できているし，安心できる，良きパートナーである。

この事例は，夫婦がパートナーシップによってつながっていることが強調され，家族は自らが守るべきものであり，また，自身がそのための努力を惜しまない，そのことが家庭に居場所をもたらし，安らぎの場としての機能を有するようになっている。

これらポジティブな事例は，いずれも夫婦間のコミュニケーションを大切にすること，そのための努力を惜しまないこと，そしてその努力によって家庭内に居場所をもっていることが共通している。

b)－1　母親　ネガティブ

・174番（－5）

④「夫と私は」このまま夫婦でい続けられるのでしょうか。⑰「私の居場所は」どこにもない。⑳「家にいると」落ち着かない。㉑「夫が病気になると」手がかかる。㉚「性生活」ない方がいい。必要なし。㉛「私にとって家族は」何だろう。㉜「夫とふたりでいると」ときめかない。

この事例は，夫婦や家族の現状のあり方に疑問を抱いており，家庭内の軋轢が疑われる。家庭そのものが家庭としての機能を失っている。このことは子育てのハイリスク要因となるだろう。

・25番（－4）

④「夫と私は」分かり合えない　⑰「私の居場所は」はどこにあるんだろう？⑳「家にいると」　rej.　㉑「夫が病気になると」ずるいと思う。私がいくら苦しくても何でもさせるのに自分は寝て，ゲームして，マンガ見て…㉚「性生活」大嫌い！とくにだんなとは。㉛「私にとって家族は」本当は安らげる場所でいてほしい㉜「夫とふたりでいると」最悪！

この事例は，夫のあり方が家族や夫婦関係を壊している元であるという認識をもち，夫婦関係そのものが崩壊の危機にある。

・16番（－4）

④「夫と私は」あまり仲良くありません。記念日や誕生日もほとんど無いも同然です。姑がいるのでいちゃいちゃできないのも理由の一つです。⑰「私の居場所は」車の中です。姑がいるので家の中はおちつきません。だからいつも子供と車で遠くへお散歩してました。⑳「家にいると」おちつきません。誰もいない時は好きなそうじとかしてピカピカにしたあとひと息つくのが楽しいです。㉑「夫が病気になると」こまります。　収入が夫一人でまかなっているからです。㉚「性生活」はマンネリ化しています　㉛「私にとって家族は」子供二人です。㉜「夫とふたりでいると」いつ文句いわれるかビクビクしてます。ほめられた事がありません。ただ私はやつあたりされるだけの存在です。

この事例は，夫との関係だけでなく，姑との関係においても軋轢があり，家族関係では厳しい状況にあり，家で一人の時にのみ安らぎを得ている。

ネガティブな評価の多い母親たちの共通項は夫婦間のコミュニケーションが円滑でなく，軋轢や夫の無理解などがある場合に家庭はその機能を果たせず，妻は居場所を得ることが困難になる。

b)－2　母親　ポジティブ

・30番（＋7）

④「夫と私は」学生時代からの長い付き合いです。多くの時間と出来事を共有してきたので，何でも話せ，信頼が持てます。⑰「私の居場所は」家族の中心です。夫と子どもたちの中心で皆のバランスを保っています。⑳「家にいると」つい忙しく働いてしまいます。もう少し子どもに関わってあげなくてはと反省しています。㉑「夫が病気になると」精神的な支えとなることが必要となります。㉚「性生活」は大切だと思います。ぬくもりを感じれば心を許し合えます。㉛「私にとって家族は」全てです。皆が健康で幸せであってくれればと思います。㉜「夫とふたりでいると」つい子どもたちの話になってしまいます。そのような時しみじみ幸せを感じます。

この事例は，信頼関係で結ばれた良好な夫婦関係であり，母親は家族の中心にいて家族の世話をし，家族関係の調整をしているようである。

・37番（＋7）

④「夫と私は」特にこれといって取り柄のある２人ではありませんが，仲良く，一生やっていけると思います。⑰「私の居場所は」今の家，というより，家庭。今が一番心おだやかで落ち着いている。⑳「家にいると」ゆったりとし，割と優雅に過ごしていると思う。㉑「夫が病気になると」とてもきになり，子供に与えるようなやさしさをその時だけは夫にも与えたくなります。㉚「性生活」は，とても大事なことだと思う。相手を思いやる気持ちを確認するいい機会であるとも思う。㉛「私にとって家族は」なくてはならない大切な人達。最も落ち着いて心を開ける人達。㉜「夫とふたりでいると」あまり話さなかったり，話したり，どちらでもあまり気にせずいられる，ずっと一緒にいても楽にしていられる。

この事例は，仲の良い夫婦関係や心を開いて安心できる家族関係であることがうかがえる。

以上の２事例は「家」を基軸として，そこに自分の居場所をしっかりと持ち，円滑な夫とのコミュニケーションがあって，そして，妻を支える夫がいるという家庭の一つの健全な姿が映し出されている。

（３）領域Ⅲ「父（母）親自身・男（女）性性」９項目

a)－1　父親　ネガティブ

・79番（－2）

①「子どもの頃の私は」さみしかった。③「将来，私は」どうなっているのだろう？⑨「私が感情的になるのは」思い通りにいかないときだ。カッとなったあと，いつも自己嫌悪になる。⑩「私はひとりでいると」おちつく時もあるが，さみしい時もある。⑯「私は男として」もっと大成したい。⑲「思いどおりにいかないと」すごくむかつく。㉕「困り果てたとき私は」何もかもやめてにげだしたくなる。㉗「死ぬときは」…，とよく考える。㉘「暴力」は嫌いだ。

この事例は，子どもの頃から現在に至るまで孤独感に彩られているところに特徴が認められた。また，ストレス場面ではその感情を抑えることができず，耐性に乏しい。

・5番（－2）

①「子どもの頃の私は」気が小さい　③「将来，私は」rej.　⑨「私が感情的になるのは」　rej.　⑩「私はひとりでいると」さみしい気がする。⑯「私は男として」

rej. ⑲「思いどおりにいかないと」頭にくる。㉕「困り果てたとき私は」rej. ㉗「死ぬときは」rej. ㉘「暴力」 rej.

この事例は，回答拒否が多く自省を回避する，孤独感と自己を矮小化する傾向が若干認められた。

・1番（−2）

①「子どもの頃の私は」わがままだった。③「将来，私は」わからない。⑨「私が感情的になるのは」妻がバカなとき。⑩「私はひとりでいると」つまらない。⑯「私は男として」りっぱだ。⑲「思いどおりにいかないと」いらいらする。㉕「困り果てたとき私は」ねる。㉗「死ぬときは」あきらめる。㉘「暴力」はいけない。

本事例は，どことなく諦観に塗り込められたところが見受けられる。男としての自己肥大感がうかがわれた。

おおむね，ネガティブ得点の高めの父親のこの領域の特徴はネガティブな得点を示す程度がほかの領域に比べて小さいことである。共通して子どもの頃の自己への思いは良くない。自己否定感はそれほど悪くないが，ストレスへの耐性に乏しい傾向にある。

a)−2　父親　ポジティブ

・36番（+9）

①「子どもの頃の私は」かわいがられた ③「将来，私は」大物になりたい ⑨「私が感情的になるのは」納得がいかない時 ⑩「私はひとりでいると」自分のしゅみの事をする ⑯「私は男として」しっかりやらなくてはと思う ⑲「思いどおりにいかないと」何とかして成し遂げようとする㉕「困り果てたとき私は」友人に相談する。㉗「死ぬときは」寿命で死にたい。㉘「暴力」は良くない。

この事例は，基本的にストレス耐性があり，それへの対処もうかがわれる。

・92番（+9）

①「子どもの頃の私は」とても自由に遊びました。毎日が楽しい日々でした。 ③「将来，私は」自分の違った可能性を試したいと思っています。⑨「私が感情的になるのは」あまりありませんが，自己中心的な人に対しては不快の情を示すことがあります。 ⑩「私はひとりでいると」将来の事を考えます。読書が好きなので本があれば読書をしています。⑯「私は男として」家族の生活に責任を持ちたいと思っています。将来子供達が私の生き方に賛同してくれれば幸せです。⑲「思いどおりにいかないと」その理由をまず考えます。自分なりの対処法を考えて行動します。㉕「困り果てたとき私は」熟考します。その後で行動を起します。相談した方が解決が早い時は適任者に相談します。㉗「死ぬときは」自分の寿命を大体わかった上で，色々と整理ができたらと思います。そこまで余裕があるか自信はありませんが。㉘「暴力」は基本的にはいけない事です。特に成人してからは，それによって失うものが多いという事を子どもたちにも言い聞かせていきたいと思います。

この事例は，ストレス場面では冷静に対応すること，自己にこだわらず，他者への依存ができる，男性性を家族を守ることとしてとらえている。

ポジティブ事例では子どもの頃の自己のあり方に肯定的であること，ストレス耐性があり，その対処法が認められることに特徴がある。他方，対照的にネガティブ事例は基本的には子どもの頃のあまり良くない思いが後のストレス耐性等に影響を与えているかもしれない。

b)−1　母親　ネガティブ

・174番（−8）

①「子どもの頃の私は」親に愛されたと思ったことがない。③「将来，私は」どうなっているでしょう。⑨「私が感情的になるのは」上の子に対して。⑩「私はひとりでいると」ゆっくりしたいと思うが家事におわれる。⑯「私は女として」特に幸せとは思わない。⑲「思いどおりにいかないと」死にたくなる。㉕「困り果てたとき私は」気が狂いそうになる。㉗「死ぬときは」一人きり。㉘「暴力」子供にふるっている。

本事例は子どもの頃から一貫して自己肯定感が低く，ストレス耐性に弱い。それが子どもに暴力として向けられている可能性を示している。

・77番（−4）

①「子どもの頃の私は」我慢ばかり，やりたいことが全然できなかった ③「将来，私は」どうなるんだろう ⑨「私が感情的になるのは」自分の思い通りにならない時 ⑩「私はひとりでいると」何かしなくちゃとあせってしまう ⑯「私は女として」最低！⑲「思いどおりにいかないと」おこる ㉕「困り果てたとき私は」夫にやつあたりする㉗「死ぬときは」夫と一緒がいい㉘「暴力」だけはできるだけさけたい

本事例も先の事例同様に子どもの頃からの問題を抱えているし，ストレス対処も不十分である。女性としての受け入れも良くない。

ネガティブな母親に共通するのは，子どもの頃から自己肯定感を養うことができないこと，ストレス対処が不十分であること，将来展望も定かでないこと，女性性の獲得ができていないか，あるいは女性性を発揮できないか，それを受容できていないこと等に特徴がある。

b)−2　母親　ポジティブ

・97番（+8）

①「子どもの頃の私は」とても大事にかわいがられて育ちました。自分の子供にも，同じようにしたいと思います。③「将来，私は」子供が自立した後夫と2人で旅行でものんびり行きたいと思っています。⑨「私が感情

的になるのは」めったにありませんが，常に冷静であるように心がけているつもりです。⑩「私はひとりでいると」ぼーっと外から見える花や景色をながめています。⑯「私は女として」夫からも子供からもいつもステキに見えるようにしていたいと思います。⑲「思いどおりにいかないと」たいていは夫に相談するようにしています。人に話すことによって気分が落ちつきます。㉕「困り果てたとき私は」身近な人に相談します。特に夫に相談し，一緒に考えてもらう事が多いです。㉗「死ぬときは」家族にみとられて死にたいです。㉘「暴力」はどんな人であってもゆるせません。子供にはいつも人にはやさしくしなさいと言っています。

この事例はストレス対処が可能であり，冷静に対応すること，夫等への相談ルートを持っていること，女性としてのあり方を家族との関わりでとらえていること，子どもの頃の親子関係の良さを自分の子どもとの関係にも活かしたいなどに特徴がある。

・17番（＋8）

①「子どもの頃の私は」よく外で遊んだ。雪の日でも平気で外で遊んでいたことが今ではなつかしい。③「将来，私は」豊かな人生を送るために　今から少しずつ趣味を広げていきたい。昔かじった趣味も，もう一度やりたい⑨「私が感情的になるのは」大切なものを　けなされたり　傷つけられた時である。⑩「私はひとりでいると」まずお湯をわかし，何を飲もうか何を食べようかなあと考えてしまう.⑯「私は女として」礼儀や作法を身につけなければいけないと思う.⑲「思いどおりにいかないと」落ち込んだり　イライラすることもあるがいつの間にかあきらめてしまうことが多くなった気がする.㉕「困り果てたとき私は」誰かに相談する　夫だったり友人だったり母親だったり。㉗「死ぬときは」自分の人生に悔いのない形で死にたい.　まだまだ先のことと考えている。㉘「暴力」はいやだ.　さまざまな社会的問題も幼少期に問題があったりするなどと言われるが，暴力のない社会にしたいものだ。

この事例もストレス対処にいくつかの方法を持っていることがうかがわれる。自分の時間や自分の生き方を大切にしていることや，相談ルートを複数持っていること，女性としてのあり方などが特徴である。

ポジティブな母親はストレス対処法を身につけている，一人でいるときも孤独感に悩むことなく自分のひとときとして大事な時間にしていること，女性としての自分に肯定感があること，子どもの時から良い親子関係にあるとなどの特徴が共通して認められる。

ネガティブスコアの高い母親たちに比べると，女性性を含む自己肯定感，将来展望の良さ，ストレス対処法を身につけていることなどに大きな違いが認められた。これらは父親同様に幼児期の体験の良さ（親子関係等）が影響している可能性がある。

母親と父親のネガティブな群を比較すると母親側は父親側に比べてネガティブスコアが大きい。その分，ストレス耐性等に弱く，自己肯定感も子どもの頃から低い。また，女性性としてもそれを受け止め得ないという特徴がある。

（4）全体

a)－1　父親　ネガティブ

・79番（－6）

①「子どもの頃の私は」さみしかった。②「子育ては」たいへんだけど，おもしろいこともある。③「将来，私は」どうなっているのだろう？④「妻と私は」お互いに不満に思っているところがある。⑤「しつけ」は難しい。⑥「子どもと私は」似ている。⑦「友人」は大切だ。なかなか会う機会もなく，昔のように遊びたい⑧「母と私は」反りがあわない。母の期待する息子にはなれない。なりたくない。でも，申し訳ないとも，たまに思う。⑨「私が感情的になるのは」思い通りにいかないときだ。カッとなったあと，いつも自己嫌悪になる。⑩「私はひとりでいると」おちつく時もあるが，さみしい時もある。⑪「私にとって子どもは」大切な存在であるが，時にわずらわしく思う。⑫「子どもが生まれてから」自由でなくなった。⑬「仕事」は，楽しいが，時に全て放り出して何もしたくなくなる。⑭「子どもといると私は」，心がなごむ。時間におわれたり，他にすべきことがあると，イライラすることもある。⑮「妻と子どもは」いて良かったかな‥‥？⑯「私は男として」もっと大成したい。⑰「私の居場所は」どこにもないように思う時がある。だから居場所を作るために，一生懸命仕事をしたり，何かをしたりして，居場所を作ろうとしているのかもしれない。⑱「子どもにとって私は」いなくてもかわらない存在。2つめのアイスクリームのように，あれば嬉しい時もある，ってかんじかな。⑲「思いどおりにいかないと」すごくむかつく。⑳「家にいると」落ちつく。反面，雑事があってわずらわしい。㉑「妻が病気になると」自分がいろいろしないと！！と思い，頑張ろうと思うが，仕事を休むこともできず，大変だ。㉒「子どもは私を」都合の良いように利用している。㉓「もしも子どもが」いなかったら，自由だなぁ，とたまに思うが，いて良かったと思い直す。㉔「父と私は」，よくわからない関係です。㉕「困り果てたとき私は」何もかもやめてにげだしたくなる。㉖「子どもが言うことをきかないと」イライラする。㉗「死ぬときは」…，とよく考える。㉘「暴力」は嫌いだ。㉙「子どもの気持ち」を大切にしたいとは思うが，現実難しく，大切にできないことが多い。㉚「性生活」に満足している訳でもないし，具体的な不満がある訳でもないし，ん‥‥もっと刺激があっても良いかなぁ。㉛「私にとって家族は」何なんだろうと思う。子どものころに，不幸な家庭環境だったので，家族の意味とか大切さとか，実感がうすい。㉜「妻とふたりでいると」，

たまには子供をおいて，のんびりとどこかにでかけたりしたいなぁと思う。

この事例を一言で言えば，アンビバレントな感情に彩られていると言うことであろう。端的に子どものとの関係に良く表れていて，「子どもの気持ち」を大切に，でも現実はできないことが多く，自分にとっての子どもも大切だが時々わずらわしいなどである。また，基本的にはストレスに弱く，それの対処が不十分であり，自己の親子・家族関係も良いとは言えない。このことのためか，家族を持った自分にとまどいを感じている。この事例にとっては妻や子どもは良いこともあり，大変であることもあって，いまだ受容できない存在であるということができる。

・16番（－6）

①「子どもの頃の私は」おとなしい ②「子育ては」むずかしい ③「将来，私は」わからない ④「妻と私は」rej. ⑤「しつけ」は，必要 ⑥「子どもと私は」仲が悪い ⑦「友人」は，必要な人としかつきあわない ⑧「母と私は」仲が悪い ⑨「私が感情的になるのは」親の遺伝 ⑩「私はひとりでいると」リラックスできる ⑪「私にとって子どもは」人生の夢であり　大切な物 ⑫「子どもが生まれてから」たいへん ⑬「仕事」がいそがしすぎる ⑭「子どもといると私は」大変つかれる ⑮「妻と子どもは」仲が良い。⑯「私は男として」 rej. ⑰「私の居場所は」あまりない ⑱「子どもにとって私は」必要か不必要かわからない ⑲「思いどおりにいかないと」イライラ ⑳「家にいると」つかれる㉑「妻が病気になると」たいへん㉒「子どもは私を」きらい㉓「もしも子どもが」rej. ㉔「父と私は」仲が悪い㉕「困り果てたとき私は」rej. ㉖「子どもが言うことをきかないと」おこる。㉗「死ぬときは」 1人静かに ㉘「暴力」 rej. ㉙「子どもの気持ち」わかるが，言う通りにしてられない㉚「性生活」不満 ㉛「私にとって家族は」 rej. ㉜「妻とふたりでいると」 rej.

この事例は回答拒否が多く，とりわけ家族に関わる項目に目立つ傾向がある。子どもは大切としながらも子どもへの対応がうまくいっておらず，父子関係がつまずいていることを示していた。自分の親子関係もよくなくそのことが自分の子どもとの関わり方に悩む結果を招いているようである。父親の育児不安を示しているともいえる。

a)－2　父親　ポジティブ

・23番（＋29）

①「子どもの頃の私は」何事にも好奇心旺盛であまり病気もせず元気だけが取り柄のようでした。又将来への夢を想像するのが好きでした。 ②「子育ては」とても楽しい反面始めてのことなので一つ一つに深く考え答えを出していくことが大切と考えています。人としての使命と責任を感じます。③「将来，私は」物質的に何が欲しいとかこうなりたいという欲望よりも人としての生を与えられた以上人間を高める心を高める向上心をわすれない人生を送りたいと思います。④「妻と私は」人生のパートナーとして一番の理解者として助け合いお互いの協力の基，豊かな人生を送りたいと願っています。⑤「しつけ」は，日々のくちぐせであると思っています。特に大切なことは良心に伴なう正しい答えを見つけることだと感じます。 ⑥「子どもと私は」生涯助け合える理解者であり続けたいと願います。一人の人間として認め合える仲であればと思います。 ⑦「友人」は人生を送るのになくてはならないものと思います。しかし類は類を呼ぶということからも本人の向上や物事の正しさがまずは大事と考えています。 ⑧「母と私は」今，半年に1度何日間か過ごす関係です。しかしその時はお互いに言葉は少ないにしろ心休まる時間であり又将来私と子供の関係を考えさせられる時間です。⑨「私が感情的になるのは」あまりないように思いますが…あるとすれば自分自身がこだわりというものを持ち過ぎている時だと思います. ⑩「私はひとりでいると」創造するのが好きです。又読書が好きなので人生や仕事に関わる本を読みます。⑪「私にとって子どもは」人生に対して掛け替えのないものです。又日々の生活に活力と希望を与えてくれます。⑫「子どもが生まれてから」妻との会話の幅が広がったようになりました。又物事に対する考え方に深く対話するようになりました。⑬「仕事」は私の人生になくてはならないものです。一人の人間として使命と責任を表わすのに一番やりがいのあるものです。⑭「子どもといると私は」心が豊かになります。その反面あまくなり過ぎる自分に反省もしだれよりも仲の良い関係でいたいともおもったりします。 ⑮「妻と子どもは」一番の理解者　同志に見えます。又子供にとって妻は一番の教育者とも感じます。⑯「私は男として」何が大切であり必要であるかを考え自分にとって何をやりたいかより何をすべきかを理解し自分の役割を全うし必要とされる人でありたいと願います。 ⑰「私の居場所は」家庭であり職場であり日本であり地球人であるという考えで生活したいと思っています。⑱「子どもにとって私は」必要な人ではないでしょうか又必要な人にならなければと思います。⑲「思いどおりにいかないと」次のステップのチャンスと捕らえ感謝するようにしています。⑳「家にいると」できる限り家族とのコミュニケーションを取りお互いの理解を深める努力をします。㉑「妻が病気になると」改めて予防の大切さを痛感いたします。治療はもちろんですが今後のためにも病気にならない日々の努力を検討します。㉒「子どもは私を」大好きでいてくれると思っています。そのためにももっといっしょにいる時間をつくりたいと日々思っています。㉓「もしも子どもが」自分の意志で希望や選択を相談された時は原理原則に基づいた人として正しい答えでアドバイスしたいと思います。㉔「父と私は」

お互い認め合っていた関係だったと思います。今は亡父を尊敬しています。㉕「困り果てたとき私は」本を読むようにしています。人としての正しい答えはなにかを自分の中に答えを出すよう心がけます。㉖「子どもが言うことをきかないと」理解できるように会話するようにしています。年令に関係なく物事のとらえ方には本質を話すことが一番であると思います。㉗「死ぬときは」向上をわすれなかった人でいたいと思います。㉘「暴力」は人間界にしかない不必要なものと考えています　せっかくもって生まれた考える力と心を最大限に活用すべきと思います。㉙「子どもの気持ち」はその年令レベルでできる限り理解し次のステップのアドバイスもわすれないようにしたいと考えます㉚「性生活」は必要なことであると同時に相手を想う心がそれ以上に大切なことだと思います。㉛「私にとって家族は」人生を生きるのになくてはならないものであり仕事にとっても一番の支えとなるものです。㉜「妻とふたりでいると」子供の事が一番の話題になります。又その話し合いによりお互いの理解や考え方の深さがお互いとても勉強になっています。

この事例は男性としてはめずらしく，非常に多くの文言を費やして自分の思いや考えを述べていることである。総じて，男性の回答は短いが，この例に代表されるが，ポジティブな父親たちほど回答が長くなる傾向がある。夫婦関係，家族，父子関係，自己の親子関係，男性としても，いずれも肯定的であり，また，ストレスマネージメントにおいても破綻がない。理想的にすぎる感じもするが，現在の家庭生活において，夫，父親としての役割が十分に果たせるよい状況にある。

・65番（＋28）

①「子どもの頃の私は」とても活発な子どもだったと聞いています。②「子育ては」妻だけに任せるという訳では無く時間を作り私も子供・妻とのコミュニケーションの場と考え進んでやる ③「将来，私は」妻，子供達から，ありがとうと言われる様な良き父，夫でいたい。④「妻と私は」子育てのことなどで意見の食い違いはあるが基本的には仲の良い二人だと思う。⑤「しつけ」に対してはあまやかさずに厳しくやっていきたい。⑥「子どもと私は」とても仲が良く，楽しい時間が過ごせる。⑦「友人」とは家族，仕事で会う時間が無いが人生の中でとても必要なある意味パートナーだと思う。⑧「母と私は」今でもとても仲が良い。⑨「私が感情的になるのは」仕事，家庭など色々とあるがすぐに忘れ落ち着く努力をする ⑩「私はひとりでいると」なるべく体を休めたり，時間を気にすることなく趣味に没頭してみたい。⑪「私にとって子どもは」かけがえの無いエネルギーをくれる大切な存在である。 ⑫「子どもが生まれてから」より将来を考えて仕事，人生をやっていこうと思う。⑬「仕事」は家族達の生活を考え父である私が頑張り続ける物である。 ⑭「子どもといると私は」悩みなど忘れて笑顔になれる ⑮「妻と子どもは」とても仲が良く見ている私も楽しくなる。⑯「私は男として」家族を一生守り続ける義務がある。⑰「私の居場所は」仕事場ではなく，家族との輪の中だと想う。 ⑱「子どもにとって私は」これからの人生の良き理解者でありたい。⑲「思いどおりにいかないと」ついストレスが溜りお酒を呑んだりしてしまう。⑳「家にいると」とても落ち着く。㉑「妻が病気になると」もちろん心配になり，私は何が出来るか考え休ませてあげたい。㉒「子どもは私を」今の所は良き父だと思ってくれていると考えます。㉓「もしも子どもが」怪我などをしたらと考えるとつらくなる。 ㉔「父と私は」今でもよい相談相手だ。㉕「困り果てたとき私は」自分なりに考え努力し克服する。㉖「子どもが言うことをきかないと」子供の目線で話し理解できる様にする ㉗「死ぬときは」家族に迷惑だけはかけたくない。㉘「暴力」はけして許されることではない。㉙「子どもの気持ち」をよく解り，良き父でいたい。㉚「性生活」必要不可欠なもの㉛「私にとって家族は」一番大事なもの ㉜「妻とふたりでいると」楽しい。

この事例では，子育ても妻任せでなく，その場を妻子とのコミュニケーションの場と位置づけており，また，子どもはエネルギーを与えてくれ，子どもの視線に合わせて理解していこうと務めている。そして，男性性を家族を守るものとして位置づけており，その具体像が父子関係や夫婦，家族関係に現れている。自己の親子関係も良好である。

全体を通して，ネガティブな父親は自己の親子関係（子どもの頃の自己像を含めて）が必ずしもよくないこと，このことが家族関係の悪さに関連していることがわかる。ポジティブな父親たちは，これに対照的な像が結ばれていることに注目したい。また，男性性が一人の自分としてではなく，親としての自分を支える基本的なものとなりうることを示唆していると推測されることは注目に値する。

b)－1　母親　ネガティブ

・174番（－17）

①「子どもの頃の私は」親に愛されたと思ったことがない。②「子育ては」苦しい。③「将来，私は」どうなっているでしょう。④「夫と私は」このまま夫婦でい続けられるのでしょうか。⑤「しつけ」に関しては厳しすぎだといわれる。⑥「子どもと私は」もっと関係が良くなるといい。⑦「友人」には恵まれていると思う。⑧「母と私は」一生仲良くなれないと思う。⑨「私が感情的になるのは」上の子に対して。⑩「私はひとりでいると」ゆっくりしたいと思うが家事におわれる。⑪「私にとって子どもは」いなかったら楽なのかな。⑫「子どもが生まれてから」自分の時間もお金も何も私のものはなくなった。⑬「仕事」をしたい。⑭「子どもといると私は」

楽しくない。苦しい。⑮「夫と子どもは」仲が良い（？）⑯「私は女として」特に幸せとは思わない。⑰「私の居場所は」どこにもない。⑱「子どもにとって私は」上の子は鬼と思っているかも。下の子はお世話係と思っている。⑲「思いどおりにいかないと」死にたくなる。⑳「家にいると」落ち着かない。㉑「夫が病気になると」手がかかる。㉒「子どもは私を」好きじゃないと思う。㉓「もしも子どもが」死んでしまったらどう思うだろう。㉔「父と私は」30年も会っていない。㉕「困り果てたとき私は」気が狂いそうになる。㉖「子どもが言うことをきかないと」感情のコントロールができずに手や足も出て精神的においつめる。㉗「死ぬときは」一人きり。㉘「暴力」子供にふるっている。㉙「子どもの気持ち」をわかっていない親だと思う。㉚「性生活」ない方がいい。必要なし。㉛「私にとって家族は」何だろう。㉜「夫とふたりでいると」ときめかない。

この事例は自己の親子関係の課題を抱えるとともに，母子関係も形成不全があり，育児不安状態に陥っている。夫婦関係も冷めた，あるいは悪化の方向へ向かっていて，将来の展望は閉塞状態にある。ストレスへの対処もままならない。こうした点で，心理臨床の対象といえる。

・77番（−13）

①「子どもの頃の私は」我慢ばかり，やりたいことが全然できなかった　②「子育ては」おもしろい楽しいとは思えない　③「将来，私は」どうなるんだろう　④「夫と私は」うまくいっているんだろうか　⑤「しつけ」をするってつらい　勝手に覚えてくれればいいのに‥‥⑥「子どもと私は」何かが足りない　⑦「友人」と呼べた人が転勤になってしまった　⑧「母と私は」たぶん似ている　⑨「私が感情的になるのは」自分の思い通りにならない時　⑩「私はひとりでいると」何かしなくちゃとあせってしまう　⑪「私にとって子どもは」なぜ欲しいと思ったんだろう　⑫「子どもが生まれてから」しんどい事ばかり　⑬「仕事」してる方が楽かも…⑭「子どもといると私は」イライライライラ‥‥⑮「夫と子どもは」とっても仲良しで楽しそう　⑯「私は女として」最低！⑰「私の居場所は」家の中だけ　⑱「子どもにとって私は」愛情を求める対象　⑲「思いどおりにいかないと」おこる　⑳「家にいると」子供がうっとうしい㉑「夫が病気になると」腹がたつ㉒「子どもは私を」こわがっているかも‥‥㉓「もしも子どもが」病気になったり，死んだりしたら私は悲しむだろうか㉔「父と私は」距離が遠い㉕「困り果てたとき私は」夫にやつあたりする㉖「子どもが言うことをきかないと」きれる㉗「死ぬときは」夫と一緒がいい㉘「暴力」だけはできるだけさけたい㉙「子どもの気持ち」がわかっているのに受け止めてあげられない㉚「性生活」は夫からの一方的な要求ばかり，私から求める気力はない㉛「私にとって家族は」いなくなった時にはじめてわかることだと思う㉜「夫とふたりでいると」つくづく優しい人だと思う

この母親は子どもとの関係がうまくいっていないがそれは子どもとの関係だけでなく，子どもを育てるための感情や意志や意欲，受容する気持ちの成熟に問題がみられる。自己の親との関係，夫婦関係，ストレス対処においても課題が認められる。

・5番（−8）

①「子どもの頃の私は」内気．②「子育ては」うまくいかない．③「将来，私は」考えない。④「夫と私は」仲が悪い　⑤「しつけ」はおしつけとちがう。⑥「子どもと私は」人間同志　⑦「友人」一番楽しい．⑧「母と私は」仲が悪い　⑨「私が感情的になるのは」酒を飲んで酔った時．⑩「私はひとりでいると」寝て体を休める。⑪「私にとって子どもは」宝物．⑫「子どもが生まれてから」親となった。⑬「仕事」は，大変。⑭「子どもといると私は」イライラする．⑮「夫と子どもは」楽しそう。⑯「私は女として」ブサイク。⑰「私の居場所は」自宅。⑱「子どもにとって私は」必要ではないかも…．⑲「思いどおりにいかないと」物にあたる．⑳「家にいると」ストレスが貯まる。㉑「夫が病気になると」困る。㉒「子どもは私を」こわがっている。㉓「もしも子どもが」死んだら，私も…。㉔「父と私は」不仲。会話が無い。㉕「困り果てたとき私は」友達に相談する。㉖「子どもが言うことをきかないと」なぐる。ける。ひっぱたく。㉗「死ぬときは」家の中をかたづけてから死にたい。㉘「暴力」的な性格です。㉙「子どもの気持ち」は分からない。㉚「性生活」少ないかも。㉛「私にとって家族は」ウザイ。㉜「夫とふたりでいると」会話が無い。

この事例では，家族関係，夫婦関係，母子関係いずれも関係が形成されておらず，自己の親子の関係も良くない。四方八方，他者関係がすべてうまくいかず，子どもに対しては宝物と認識していることは救いであるが，やや紋切り型の回答であり，むしろ日常的な虐待が繰り返されている可能性の高い状態にあり，心理臨床的な支援の必要がある。

b)−2　母親　ポジティブ

・20番（＋30）

①「子どもの頃の私は」運動が大好きで，元気で明るい子どもでした。②「子育ては」大変だと感じることもありますが，子どもの成長をそばで見られることに楽しさとうれしさを感じています。③「将来，私は」子育てと仕事のバランスをうまくとりながら家族仲良く暮らしていけたらと思っています。④「夫と私は」友達のような関係です。会話をよくします。⑤「しつけ」は，とても大事なことだと思います。子どものしつけは親の責任だと思っています。⑥「子どもと私は」一心同体だと思います。子どものために母親にしかできないこと，というものがあると思います。⑦「友人」は，大切にしなけ

ればいけないなと思います。とくになんでも話せる友人は，一生大切にしたいです。⑧「母と私は」母娘というよりも姉妹のような関係です。離れて暮らしている今は，母のことが心配です。⑨「私が感情的になるのは」人と別れなければならない時です。卒業，旅立ち，引っこし，子どもを保育所に送りだす時などです。⑩「私はひとりでいると」始めは，ゆっくりできていいなぁと思いますがだんだんさびしくなります。⑪「私にとって子どもは」宝です。⑫「子どもが生まれてから」家族がにぎやかになり，笑いが多くなりました。⑬「仕事」と子育ての両立は大変ですが，仕事におもしろさを感じています。仕事は続けたいです。⑭「子どもといると私は」心が和みます。いやなことがあっても子どもの顔を見ると，心がいやされます。⑮「夫と子どもは」最近になって（子どもが物事をわかるようになって）2 人で遊ぶことが多くなりました。⑯「私は女として」子どもをうむことができたことをうれしく思います。女らしさは一生もち続けたいと思っています。⑰「私の居場所は」家庭の中にあると思います。⑱「子どもにとって私は」なくてはならない存在だと思います。⑲「思いどおりにいかないと」イライラすることが多いです。でも，また計画を立て直してやり直します。⑳「家にいると」ほっとします。ほっとしすぎて，だらだらしてしまうこともあります。㉑「夫が病気になると」困ります。一日も早く元気になるように一生懸命看病します。困るのは精神的にです。㉒「子どもは私を」必要としていると思います。子どもにとって母親の存在はとても大きいと思います。㉓「もしも子どもが」病気になったら，死ぬほど心配です。かわってあげられたら…と毎日思うことでしょう。㉔「父と私は」離れて暮らしているので，父の体（健康状態）のことがとても心配です。㉕「困り果てたとき私は」家族に相談します。周りの人にいろんなアイデアをもらって，自分でまた考えます。㉖「子どもが言うことをきかないと」どのようにしたらわかってくれるのかを考えます。頭ごなしに叱ることだけは，さけたいです。㉗「死ぬときは」みんなに迷惑をかけないで死にたいです。㉘「暴力」は絶対反対です。とくに子どもへの体罰，暴力はその子どもの成長，発達に決してよくないと思います。㉙「子どもの気持ち」をよく考えて，よくくみとって，私たち大人は行動をしなければならないと思います。㉚「性生活」は夫婦間において大事なことだと思います。夫も私も心休まるような性生活を送れたらと思います。㉛「私にとって家族は」安心できる場所です。ありのままの自分をさらけだすことができるからです。㉜「夫とふたりでいると」安心します。守ってもらっているような気もちになります。

家族関係，夫婦関係，母子関係共に良い状況にある。ストレスへの対処法があり，また，自己の親との関係の良さもプラスになっている。つまり，対おとな関係の良さは母親の心身の安定感を生み，それが子どもとの関係を良好にするという典型例といえる。この対おとな関係の安定度をもたらすのは，子どもの頃の親との関係の安定度（多少のことがあっても信頼関係に揺らぎがないなど）にあるように思われた。

・23番（＋27）

①「子どもの頃の私は」1 つの事をやりとげるという根気強さがありまして　また兄とともに男の子の中でも元気いっぱいに行動していました。かぜはよくひきましたがとても健康でした。②「子育ては」子どもを育てるというよりは私自身が教えられることが多く，また夫婦家族という絆の深さを感じております。③「将来，私は」一人の人間としてもっと成長して行きたいと思っております。学問もちろんですが色々な環境の中で学ぶのが一番多いと思います。④「夫と私は」お互い信じ合い助け合い人生のパートナーであると思います。⑤「しつけ」とは口で言いきかせることはもちろんですが，私達親の手本が一番ではないかと思っております。⑥「子どもと私は」家族の一員としてやはり信じ合い，助け合い，共に成長していきたいと思います。⑦「友人」はとてもたいせつな存在と思います。家族とはまた違うものを与えてくれるものと思っております。⑧「母と私は」今は一人の女性として接しているような時があります。今までは何でも相談したり，とてもすてきな関係で私と子どもの関係もそうでありたいと思います。⑨「私が感情的になるのは」私の思いが伝わらない時と思われますが冷静に考えますとすべての場合が思いちがいであることを知りさけるようになりました　⑩「私はひとりでいると」やはりじっとしていることがすくなく思いもよらない事に没頭していることがあります。⑪「私にとって子どもは」夫とともに人生のパートナーであり時には私を励まして正しい道へと導いてくれる存在でもあります　心癒してもくれるかけがえのない存在です。⑫「子どもが生まれてから」私達自身も人生をまたふり出しにもどしたような心になり両親のこと自分の小さい頃，今のことと色々な事を考えめぐらし学んでおります。⑬「仕事」も楽しく結果が得られることが出来れば幸せと思いますたくさんの人達を笑顔にむすびつけることが仕事の結果ではないかと思っております。⑭「子どもといると私は」とてもおだやかな気持ちにさせられます。時には私のマイナスなところがうきぼりにされ反省することも多いようです。⑮「夫と子どもは」一緒にいる時間がすくないのですが夫の思いが子供にはしっかり伝わっているようで時間の長短ではないと感じさせられます。⑯「私は女として」の役割や使命を認識しそれを果たすことが出来るように努力したいと思います。子供を授かったことも心から幸せに感じております。⑰「私の居場所は」夫や子供がいつも笑顔でいきいきと輝いていられることが出来る上に私の存在があると思っております。⑱「子どもにとって私は」信愛なる指導者であり時には姉であり友

達であれたらと思っております。⑲「思いどおりにいかないと」思いどおりにいかせられなかった要因を色々な面から細かい分析をし次への課題とします。⑳「家にいると」時間を忘れて動きまわっておりますが，どちらかというと自分ですることを見つけ出し増やしている気がしております。㉑「夫が病気になると」心から健康のありがたさを感じます。せめて精神的な苦しみや痛みだけでも癒すことが出来ればと思います。㉒「子どもは私を」言葉だけでなく大好きでいてくれていると思います。そのためにと考えさせられる時があり悩みます。㉓「もしも子どもが」家族をもった時，つまずいたりした時によきアドバイスができるような人間でありたいと思います。㉔「父と私は」最近になりよりわかり合えた気がします。父は小さい頃から尊敬しておりました　最近より深くより広く実感しております。㉕「困り果てたとき私は」必ず夫に相談しております。夫はどんなことでもきちんと応じてくれ色々なことを気づかせてくれてとてもささえとなっております。㉖「子どもが言うことをきかないと」どうしてなのか良く話すように心がけております。子供にわかりやすい例を出して話すことによって子供も理解してくれることが多いです。㉗「死ぬときは」たくさんの人の心に残る人間でありたいと願います。㉘「暴力」は危害だけでなく苦痛をあたえるという意味では幅広いのですが心からかくすべきものと思っております。㉙「子どもの気持ち」は子どもの世界の中で大人とは違う思考があると思われます。たいせつに聞きいれてあげることとよきアドバイスが出来たらと思います。㉚「性生活」はたいせつなことと思います。相手のことを思いやる心がたいせつと思います。㉛「私にとって家族は」かけがえのないものでたいせつにしたいと思っております。㉜「夫とふたりでいると」とかく子どもとの楽しい話になります。またそのことから色々な話に発展していき話がつきない時もあります。

本事例も前事例と同様の傾向が認められ，ポジティブな回答を多く寄せる母親像は似通っている。

ネガティブな母親とポジティブな母親を比べると，子どもの時の相違，自己の親子関係のありよう，そこから発するかのような女性像の相違，そして，ストレス対処法のあり方や夫との関係，こうしたことの違いが，自分が家族を持ったときの相違として現れているように推測される。

全項目でみてみると，ポジティブな母親と父親とはそれぞれの固有の役割観の相違はあるものの全般的に夫婦関係や自分の親との関係，子どもの頃の自己像など共通しているように思われる。ネガティブな母親と父親では，ネガティブな母親には関係の問題が強調されがちであるのに対して（とりわけ夫や自己の親，そして子ども），父親はそうした面もあるが，そもそも，そうした関係そのものに拒否的な人々がいるらしいということである。母親はさまざまな努力の延長線上で関係がうまくいかない印象があるが，父親の中には最初からそうした関係をもつこと自体を拒否しているものがいるものと推測される。

ポジティブな事例の父親は子どもへの暖かいまなざしを与えているが，これらは子どもに対してだけでなく，妻や，自分の親に対しても同様である。このことから，父親役割は全体的にさまざまな対象を包み込み，保護する機能を男性性を基軸に有していることが推測される。母親は，母子関係を基軸にしていて，この母子関係そのものを保護するものとして，夫婦関係や自己の親子関係，そして女性性の発達があるのではないかと思われる。

4．ネガティブな回答を寄せた夫とその妻との関係の検討

なお，夫側については前節で回答ならびに解釈を述べたのでここでは省略する。

（1）領域Ⅰ「育児を含む親子関係」12 項目

・4 番（夫－3，妻±0）

②「子育ては」にがてです。⑤「しつけ」についてはむずかしく考えたくありません　⑥「子どもと私は」いつも一緒です　⑪「私にとって子どもは」大切な存在ですが　ストレスの原因でもあります。⑫「子どもが生まれてから」自分の事を大切にしなくなりました。すごく老けた気もしますが元気になれて幸せな気もします。⑭「子どもといると私は」とてもイライラしてしまいます。自分のペースで動けないので苦痛です。⑮「夫と子どもは」もっと一緒に遊んでほしいです　⑱「子どもにとって私は」大好きな存在。どんなにしかってもイヤがってもくっついてきます。㉒「子どもは私を」とても必要としてくれます㉓「もしも子どもが」いなくなってしまったら　生きていく希望が持てないと思う㉖「子どもが言うことをきかないと」自分の方が我儘来ずおこってしまいます。㉙「子どもの気持ち」を考えて接してあげたいのに，むずかしいです。子供の方が成長。

この事例の母親は，子どもとの関係は両義的な感情にあるが，基本的には子どもとの関係がストレスになるときにネガティブな感情が高まる，という点では普通の母親らしいとも言える。

他方，前節で述べたようにこの父親は子どもとの関係において，心的距離をとっているようで，関わりをあまり持とうとしていない，あるいは無関心で，時には拒否的でさえあるように思える。こうした父親のあり方は子どもへのネグレクトが想像される。このことは母親が夫に子どもともっと遊んで欲しいという回答になっている。ただ，こうした夫を持つ母親が夫は夫としてやれる範囲のことをしてくれていれば良いと思えれば，格段の悪化することなくすんでいくのかもしれない。夫婦間のギャップが深まったときや妻の反応がネガティブスコアになったときが問題となるだろう。

・99番（夫－2，妻＋6）

②「子育ては」忍耐である。⑤「しつけ」必要だが難しい。⑥「子どもと私は」仲が良い。⑪「私にとって子どもは」夢である。⑫「子どもが生まれてから」生活が変わった。⑭「子どもといると私は」がまんする事が多い。⑮「夫と子どもは」あまり会話がないが仲良し。⑱「子どもにとって私は」不可欠だと思う。㉒「子どもは私を」信頼している。㉓「もしも子どもが」いじめられたら，外国でやり直す。㉖「子どもが言うことをきかないと」いいまかせる。でもあまり成功しない。㉙「子どもの気持ち」を重視していきたい。

この母親は，子どもとの関係においてストレスを抱えているが，子どものことを考えてもおり，大事にも思っている。夫の子どもとの関係も悪くみていない。

これに対して父親は，多少ポジティブな子どもとの関係もうかがわれるが，若干，母親への育児の押しつけが認められるようであり，それが無関心からくるのか，モラルハラスメントからくるのか，検討に値する。妻側のSCT合計点が＋6と低い値ではないことから，それほど，家族関係等に破綻がないと考えるのが適当であり，夫の思いは夫の中でとどまっているとみるべきかもしれない。

（2）全体

・79番（夫－6，妻＋15）

①「子どもの頃の私は」大勢の大人達に守られて幸せでした。良い思い出は沢山あります。②「子育ては」本当に大変です。世の母親達は本当によくやっていると感心してしまいます。ただ子育てで自分も成長しています。③「将来，私は」子育てと仕事を両立させて充実した生活を続けていきたい。又，子供が大きくなったら自分の時間を楽しみたい。④「夫と私は」結婚して4年だが，未だに理解しあえない部分，受け入れられない部分はあると思う。⑤「しつけ」と自分の感情をぶつけることは別だと思うし，このことに注意している。「育てたように子は育つ」と思うのでしつけには気をつけたい。⑥「子どもと私は」強い絆で結ばれていると思っている。⑦「友人」は大切にしたい。数は少なくても深くつきあえる友人がいる。⑧「母と私は」仲が良い。私の良き理解者。⑨「私が感情的になるのは」子育てで行き詰まった時が多い。又，疲れている時，イライラしている時，感情的になり易い。⑩「私はひとりでいると」リフレッシュできることが多い。⑪「私にとって子どもは」宝物であり，生きがいである。しかし，所有物ではないので，1人の人格として認めていきたい。⑫「子どもが生まれてから」自分がかなりイライラし易い人間であることに気づいた。⑬「仕事」は子育てと平行してつづけていきたい。私のライフワークとしたい。⑭「子どもといると私は」なんだかゆったりとできない。夜になると早く寝てくれないかなーと思う。⑮「夫と子どもは」私の心の支えである。⑯「私は女として」段々と魅力を失ってきていると感じる。⑰「私の居場所は」家庭にある。職場にもある。⑱「子どもにとって私は」かけがえのない存在だと思う。⑲「思いどおりにいかないと」イライラする。⑳「家にいると」落ちつく。そうじ，家事をこなさなくてはと思う。㉑「夫が病気になると」早く治らないかなと思う。イライラしてしまうこともある。㉒「子どもは私を」たよっている。㉓「もしも子どもが」病気になったり死んでしまった時のことを考えると心がつらい。㉔「父と私は」ある程度理解し，信頼しあっていると思っている。㉕「困り果てたとき私は」神に祈る。人に相談する。泣く。㉖「子どもが言うことをきかないと」しかる。ぺしっとたたくこともあったが今はやらないように努力している。分かるように説明している。㉗「死ぬときは」冷静でいたい。㉘「暴力」は戦争のはじまりだと思う。㉙「子どもの気持ち」は受け入れるように努力したい。できないことも思い。㉚「性生活」にはまあ満足している。マンネリ化している。㉛「私にとって家族は」心の支え。㉜「夫とふたりでいると」まったりしている。あまり会話のないこともある。落ちつく。

この事例の母親は，自己を含む親子関係，家族関係ともに良好であるが，夫婦関係においてややまだ，落ち着かないところがあるようで，そのことは夫側が下記に示すように家族を持つことへのとまどいを隠さないことにあるようである。ただし，母親自身は子どもとの関係を含め健全である。

他方，父親の認識は一言で言えば，アンビバレントな感情に彩られていると言うことであろう。端的に子どものとの関係に良く表れている。また，基本的にはストレスに弱く，対処が不十分であり，自己の親子・家族関係も良いとは言えない。このことのためか，家族を持った自分にとまどいを感じさせる。この事例にとっては家族，子どもはいまだ受容できない存在であるということができる。ということにより，妻側が健全であるだけにどこかで妻側が夫を了解できなくなってくることがあればそれが破綻の兆しになる可能性がある。反対に，こうした健全な妻との関係により夫の他者関係や期待される役割を担うことができるなどの改善がなされて良い方向に向かう可能性もあるだろう。

・16番（夫－6，妻－1）

①「子どもの頃の私は」おてんば娘で活発でした。②「子育ては」とても大変ですが，どんどん成長していくのでとても楽しみです。③「将来，私は」仕事をもって独立したいです。④「夫と私は」あまり仲良くありません。記念日や誕生日もほとんど無いも同然です。姑　がいるのでいちゃいちゃできないのも理由の一つです。⑤「しつけ」はしっかりと，しかる時はしかって，ほめる時はほめる。自分の感情に左右されないで，いい，悪いを教える事だと思っております。⑥「子どもと私は」仲良しです。宝物です。何より大事です。⑦「友人」結婚

してから減りました。家事に育児にばかり毎日時間をとられ，自分のための時間が少しもとれないのでさそいをことわってばかりいたせいです。⑧「母と私は」あまりいい関係とはいえません。母の金銭トラブルにばかりふりまわされて　自分の貯金がほとんど母のためにきえてゆきました。(姑) ⑨「私が感情的になるのは」姑にたいしてです。大嫌いです。私のお金，全部かえしてほしいです。⑩「私はひとりでいると」とてもリラックスできます。この4年一人でいる事が一時間もなかったからです。保育園に入れて自分の時間がもてて幸せです。⑪「私にとって子どもは」宝物です。⑫「子どもが生まれてから」私自身大人になったと思います。『20 才で大人』ではなく，人の親になって初めて大人になった様な気がします。⑬「仕事」をもちたいです。自分にあった働き場所を探してます。お金もいくらか自由になるし，生きている充実感にみたされたいです。⑭「子どもといると私は」とてもおちつきます。目に入らない所へ置いて出かけるととても心配でそわそわします。⑮「夫と子どもは」あまり遊びません。ただけむたがってばかりです。⑯「私は女として」しっかくです。身だしなみも最低限はやっているつもりですが，オシャレというものには子供を生んでからほとんどしてません。⑰「私の居場所は」車の中です。姑がいるので家の中はおちつきません。だからいつも子供と車で遠くへお散歩してました。⑱「子どもにとって私は」必要なそんざいだと思います。⑲「思いどおりにいかないと」頭にきますが，カッーときたときにどれだけ自分自身をおさえる事ができるかでがまん強さがわかると思います。⑳「家にいると」おちつきません。誰もいない時は好きなそうじとかしてピカピカにしたあとひと息つくのが楽しいです。㉑「夫が病気になると」こまります。　収入が夫一人でまかなっているからです。㉒「子どもは私を」必要としている㉓「もしも子どもが」他の子にきがいをくわえないか心配。㉔「父と私は」親子です。㉕「困り果てたとき私は」死にたくなります。どうやって死のうかいつも考えています。㉖「子どもが言うことをきかないと」おこります。でも初めは注意ですませます。㉗「死ぬときは」死ぬでしょう。抵抗しません。早く死にたいです。人生　失敗でした。親をよくみて結婚するべきでした。㉘「暴力」はこの家の姑，夫はふだんふつうにおこなわれていた様です。夫は母にぎゃくたいされて育ったと言っています。㉙「子どもの気持ち」　rej.　㉚「性生活」はマンネリ化しています　㉛「私にとって家族は」子供二人です。㉜「夫とふたりでいると」いつも文句いわれるかビクビクしてます。ほめられた事がありません。ただ私はやつあたりされるだけの存在です。

この母親は姑との関係が夫との関係も悪化させる要因ととらえている。家族関係や夫婦関係を軸にネガティブな評価が多いわりに SCT 項目の得点「0」(中立的回答) が多いこと，子どもとの関係がそれほど悪くないことで救われている。ただし，母親自身は救いが乏しく，姑，夫婦関係の問題で家族全体が危機的な状況になる可能性が高い。

父親側は回答拒否が多く，とりわけ家族に関わる項目に目立つ傾向がある。これも，妻や自分の母親との折り合いの悪さに起因していることが推測できる。子どもは大切としながらもその子どもへの対応がうまくいっておらず，そのことで父子関係につまずいていることを示している。自分の親子関係もよくなくそのことが自分の子どもとの関わり方に悩む結果を招いているようである。父親の育児不安を示しているともいえる。家族全体を見渡すと子育てをしていく，子どもが健全に育つ上ではハイリスクな家庭であるといえる。

5. 本報告のまとめ

(1) 得点のレンジ(範囲)・ネガティブ項目数の検討について

1) 領域 I「育児を含む親子関係」，領域 II「家族・夫婦関係」，領域 III「父 (母) 親自身・男 (女) 性性」，全体のいずれにおいても，父親よりも母親の方がネガティブな反応を示す傾向が強いことが認められた。すなわち，母親側が，育児，子どもとの関係，夫婦関係，家族関係，自分自身のことや女性性において問題を抱えやすいことが推察される。

これに対して，父親はある意味，母親に比べて感度が鈍く，育児不安などの問題をあまり抱えていないともいえる。

2) 本研究で作成し，使用した SCT32 項目について，ネガティブ項目が，10 項目以上ある場合には，育児不安などのなんらかの心理臨床的な問題に対するリスクは高くなると考えられる。ただし，臨床的には，1 項目であれ，回答の異様さ故に心理臨床の対象となりうることもあるため，ネガティブ項目数のみならず，SCT32 項目全ての回答内容の吟味が重要である。

(2) SCT 各領域ごとの反応カテゴリ (頻度) にみるポジティブ群の反応の特徴

全体として

1) 子どもは大切であり，生きがいでもあり，自分の人生観を変えるような体験であること

2) 子どもを育てることに持論を持ち，愛情を持ってきちんとした対応が必要であること

3) 子どもからみた父親像は頼りがいのある，尊敬されるようなもので，保護してくれる存在でもあり，また，大好きで遊び相手になるようなものであること

4) 子どもは一人の人間として尊重されるべきであること

5) 家族・夫婦関係はともによく，自分の生きがいであること

6) 居場所は家庭のみならず，職場にもあり，妻といることは安らぎであること

7）夫婦は性生活を含めてコミュニケーションが大事であること

8）男性性は家族を守ることであること

9）ストレスへの耐性があり，その耐性が家族関係において重要であること。

10）自分の親子関係は良い関係であり，とりわけ同性である父親は自己のモデルとなりうること

11）仕事は生きがいであり，その充実感は家庭生活にもプラスとなることなどであった。

（3）F·SCTとM·SCT反応の質的分析のまとめ

1）父親，母親共に，自己の親子関係のあり方や自分の子どもの頃のありようが，その後の親子関係，夫婦関係に関連があるのではないかということが示された。

2）ストレスへの対処法が少ない，あるいはストレス耐性の低い親たちほど，親子関係，夫婦関係共に良くないこと。

3）一人でいるときに自分のために役立つよう積極的に動くほど，ストレス対処ができている印象があること。

4）男性性は，家族を守るために発揮され，女性性は子どもを産み，育てることのできる誇りあるものとしてとらえられていること。

5）ネガティブな父親はもともと他者との関係を持ちにくい傾向があること，一方，ネガティブな母親は夫や子どもなどとの関係の不調がこうした回答を寄せる元になっていること。

6）ポジティブな事例の父親は子どもへの暖かいまなざしを与えているが，これらは子どもに対してだけでなく，妻や，自分の親に対しても同様である。このことから，父親役割は全体的にさまざまな対象を包み込み，保護する機能を男性性を基軸に有していることが推測される。母親は，母子関係を基軸にしていて，この母子関係そのものを保護するものとして，夫婦関係や自己の親子関係，そして女性性の発達があるのではないかと思われること。つまり，おおむね父親は家族全体を保護する機能を有し，母親は子どもを養育・保護する機能を有している。

さらにいえば，父親＜夫＞機能は自己の親子関係＜現在だけではなく自分が育てられてきたという意味での＞と男性性を基軸に家族全体を保護し，保障することにある。母親機能はこうした父親＜夫＞機能に支えられて子どもを守り育てる働きとして現れると考えられる。これの図式化を試みたものが図9である。

本節の分析は前節の分析とも相通じるものがあり，事例的であれ，一般的な分析であれ，共通した特徴をみることができ，重要な知見がえられたものと考える。

Ⅳ. 総括的考察・結語

ここでは，今回報告を含むこれまでのチーム研究6年間の主たる研究知見も含めて総括的な考察を行うが，その前段階として，過去に行った「父親研究」の知見との関連をまず総括したい。というのは，今回の一連の研究との間に有意義な関連が得られたからである。

1．我々の父親先行研究知見と本父親·男性研究との比較検討

平成元年度より平成6年度までに「厚生省心身障害研究報告書　育児における父親の役割に関する研究」(平山宗宏主任研究者)、「育児における父親の役割と保健指導に関する研究」(日暮　眞主任研究者）を行った。その結果の一部を引用し，本父親・男性研究の知見を補完したい。

父親固有の役割として，父親は仕事を通して家庭に貢献することを第1位に選択し（73.6%），子どもの社会化（70.5%），妻の相談相手・精神的支持（68.1%），そして家庭を見守ること（53.4%）が上位を占めた（項目41）。母親もこの4つの役割を選択し，同一見解を示したが，ただし，妻は相談相手・精神的支持を第1位に選択し（80.5%），この点での相違を見せた。妻の側は単に父親の役割というよりも夫としての役割を期待しているということがわかる。父親役割と夫役割を明瞭に区分することはむずかしいであろうが，夫が妻に対して精神的な支えとなることは妻にとって，その母親機能を安定して発揮できる基本条件となるということだと思われる。こうした妻側の期待に夫が充分に応えられない場合に家庭内にさまざまな問題をひきおこす一要因になるものと考えられる。

このように，父親の役割観は，順位をつければ仕事であるが，妻の相談相手・精神的支持，そして家庭を見守ることが3位，4位を占めたことは特記すべきことである。本研究でもこのことが示された。ここに、父親の役割の一つがあるといえよう。

また，われわれは平成6年度に「厚生省心身障害研究報告書　育児における父親の役割と保健指導に関する研究（2)」(日暮　眞主任研究者）を行い，つぎのように研究を要約した。

①子どもとの関わりの積極性：子どもとの関わりに積極的な父親は子どもとの関係だけでなく，自分の育った環境にも肯定的で，乳児期の育てやすさとも関連が見られたことは注目される。

②父親自身の日頃の様子：心身状態の悪さは子どもへの心配や子どもの性質等にさまざまな形で悪い影響を与えていることが推測された。

③子どもの日頃の様子：父親の状態により影響を受けていると思われ，この逆もまた考えられた。

④育った家庭の雰囲気：育った家庭の雰囲気がポジティブであるとき，父親役割は家庭的な役割観が選択される傾向がみられた。

⑤父親固有の役割：家庭重視型の役割観の父親は子ど

もや妻,家庭にいずれも積極的な役割を果たしているが,伝統的な役割観や，役割観に無関心と思われる父親は子どもや妻，家庭との関連があまり認められなかった。

というものである。

10年以上前の研究であるが，今回のSCT法の内容分析においてもほぼ，同様の結果が得られたことは注目に値する。

2．父親・男性研究第Ⅰ報から第Ⅵ報における研究知見

（1）父親の役割－SCTの回答から－

1）テキストマイニングによる分析から

① 子どもにとって父親は，「強く，楽しい，しかし厳しいところもあり，全体的には信頼される」男性として存在する。父親の役割はこのような男性としての在り方から成立すると考えられ，換言すれば，父親の役割は男性性と強く結びついているといってよい。

② 子どもにとって「仲間，よき相談相手，理解者であり，頼りになり支える」ところに父親の役割がある。

③ 子どもにとって「大きくかけがえのない存在であり，モデルともなり，そして関わり守る」という父親の役割を有している。

2）F・SCTとM・SCTの質的反応分析（臨床的読み取り）から

父親の役割を見いだすために，F・SCTとM・SCTの反応のポジティブ例について,その回答の特徴を読み取った。さらに回答を反応カテゴリーにより主な反応に分類した。

これらの結果から，父親の役割とは次のようであると考えられる。

① 子どもと楽しく，和やかに，安心してなどの情緒・感情レベルでの交流をもち，そして仲よく，一緒にと相互関係を有する。このこと自体に父親の役割があると考える。また，子どもとの関わりによって，父親自身が心豊かに,暖かい気持ちに,安らぎ等のポジティブな情緒・感情体験をもっている。従って，このような父親の体験が上述の父親の役割を生み出すものと考える。

② 子どもを，そして家族を「守ること」を中心に,「幸せに」「相談相手」「頼りがいのある」等子ども，家族そして自分自身に対するしっかりとした考え方とそれに基づく行動

を有し，ここに父親の役割がある。そして，その背景には，父親として子どもは大事，大切，宝，生き甲斐であり，子どもが生まれたことにより父親自身の生き方，考え方，人生そのもの等がプラスの方向に変化がみられたことである。

さらに，自己・男性像はポジティブに認知され，しっかりとした考え方を有している。ここには男として子ども，家族を守り，支え，幸せに，責任をもつこと等であり，上述した2つの父親の役割はこの肯定的な自己・男性像からも生じることが示唆され，このことはこれまでの研究知見にみる通りである。また，居場所が家にあることも関与していると思われる。

ところで，①にみるように，子どもと情緒・感情レベルでの交流をもつということが優位な父親と（父＜子ども＞情緒的交流優位型），②の子ども，家族そして自分自身に対するしっかりとした考え方とそれに基づく行動をとることが優位な父親という2つのタイプがあることが推察される（保護機能優位型）。

さらに，母親の反応との比較から，ポジティブな事例の父親は子どもへの暖かいまなざしを与えているが，これらは子どもに対してだけでなく，妻や，自分の親に対しても同様である。このことから，父親役割は，全体的に家族を包み込み保護する機能を，男性性を基軸に有していることが推測される。このような父親の役割のもとに母親は，子どもの「心の安全基地(J. Bowlby)」としての母子関係の基本的機能を果たすものと考えられる。

つまり,父親＜夫＞機能,即ち父親の役割の一つには,父親自身の親子関係＜現在の関係だけではなく自分が育てられてきたという意味での＞と男性性を基軸に家族全体を保護し，保障することにある。母親機能はこうした父親＜夫＞機能に支えられて子どもを守り育てる働きとして現れると考えられる。

（2）父親の役割—その成立要因—

1）パス解析及びパーテイション分析から

① 父親の役割は，「父性」が中核を占め，そこに「自分の親との関係」,「男性性を含む自己像」,「夫婦関係」が影響を与え成立する。この中核を占める父性の形成には，夫婦関係は無論のことであるが，はじまりは自分の親との関係であり，父親の役割の起源はここにあるものと考えられる。従って，今，現在の親子関係のありようが，その子が父親になったときその役割を生み，果たすための重要な要因となっている。

このことは，パーテイション分析においても示され，即ち自分の親とよい関係をもつものは，子どもとの関係も良好である。

② パス解析による標準化間接効果をみると,男性性を含む自己像→父性→育児の係数が母親のそれよりも高く,父親が育児にその役割を果たすために男性性が重要な成立要因であると考えられる。このことは前述の父親の役割を裏付けるものである。

男性としての自分を肯定的に認識している父親は，子どもとの関係，家族，夫婦関係も肯定的であるという知見をパーテイション分析からも得られている。

③ 「育児を含む父子関係」・「家族・夫婦関係」・「父親自身の男性性」の3つの領域間には，強い相関関係が認められる。即ち，いずれかの領域が肯定的なものは，他の領域においても肯定的である。従って，ここにも父親の役割を成立させる要因が示されている。

2）F・SCTの反応分析から

これまでの研究知見に示されたように，父親の役割を生み出す背景として「自分の親との関係」と「夫婦関係」が見いだされている。その反応を示すと次のようである。

① 自分の父親との関係：「互いに認め合い，信頼し合う」「よき相談相手」「心で通じ合って」「何でもはなせる」など＜よい関係＞にある。

② 自分の母親との関係：「仲良く」「心休まる」「優しく伝えあえる」などの＜情緒的関係＞及び，「よき理解者」「何でも話せる」「尊重し合える」「信頼し合える」など，いわば＜よい関係＞と2つのタイプが示された。

③ 夫婦関係：「幸せ」「愛し合って」「仲良く」「楽しい」などと，「心がいやされる」「安らぐ」「安心」「落ち着く」などの＜愛情・情緒的関係＞と「信頼」「パートナー」「助け合って」「よき理解者」などの＜よい関係＞の2つの関係が認められた。

④ さらに，「父親自身の男性性」に含まれる＜自分の子どもの頃のありよう＞がその後の親子関係，夫婦関係に関連することが見いだされた。ポジティブな父親は，「かわいがられた」「とても自由に遊んだ」「毎日が楽しかった」というようなポジティブな受けとめ方がなされている。

（3）父親機能に関する関連図

図10のモデル図は第1節で引用した研究（平成6年度）の中で取り上げたものである。ここには，父親の役割観を中心においてこの役割観に影響を与える要因，この役割観に基づいて引き起こされる養育・育児行動等を示している。まず，父親の役割観に影響を与える要因としては主に，

①心身状態のトライアングル

②父親の育った家庭環境

③職場を含む近隣環境

があげられる。以下，それぞれについて考察を加えたい。

①心身状態のトライアングル

これはもっとも基本的な図式で実際にはほかにきょうだいがいたり，3 世代同居であったりする。ここでは単純化するために両親と子ども一人の図式を考える。このトライアングルは父（夫）－母（妻）－子どもの3者関係を示していて，お互いの心身状態の良否が相互に影響を与えあっている状態であり，このトライアングル自体がひとつの要因となっていることをあらわしている。このトライアングルから生じるものが父親の役割観に影響を及ぼすとともにさまざまな養育行動（子どもとの関わり）に影響を与えていると考えられる。また，このトライアングルは心身状態だけでなく，夫婦関係ではお互いの評価や期待・要望が含まれている。昨年度（注：平成5 年度）の報告で述べたように妻は夫に父親としての役割行動だけでなく，妻（母）を支える夫機能をもまた強く望んでいる。このような妻の期待と夫側の意識や気持ちとのずれの関数として母親機能の成否があり，母子関係にも影響を及ぼすことになると考えられる。

②父親の育った家庭環境

父親が育った家庭や，その両親夫婦，父親をモデルとしたいか，また，育った家庭のイメージ，さらには父親自身の属性（年齢，学歴など）が父親役割観に影響をあたえる要因であり，これらがもっとも基本的な役割観形成のもとになるものであると予想される。発達的には幼児期・児童期は理想化された父親像が形成され，思春期・青年期を通して理想化された父親像の否定や拒否，そして父親像の再評価といったプロセスを経て父親準備性が形成されると考えられる。さらに，結婚，妻の妊娠，出産を経て父親となったという現実感が自分なりの父親像の形成，父親役割観の具体的イメージをつくりだすものと考えられる。このようにして形成された父親役割観に基づいて実際の養育・育児が行われると考えられる。この一連の発達的段階のいずれかの時期のつまずきは，ときには父親準備性の形成不全をひきおこしたり，あるいは決定的な父親像の歪みをもたらしたり，父親役割観の獲得に失敗したりするものであり，重要なプロセスといえる。

③近隣の環境要因（職場を含む）

今回の分析では近隣の環境をとりあげていないが，今日の少子化時代，女性の職場進出の著しい時代にあっては，子育てを保証し，援助するシステムに影響を与える要因として重要である。このことは，平成15年7月に成立した次世代育成支援対策推進法をみれば一目瞭然のことである。したがって，とりわけ職場環境がより細やかなところで育児を支援するためのシステム－たとえば一部すでに検討・実施されているが，職場内保育，乳幼児健診への参加や病児の通院・介護等のための育児・養育休暇，育児相談など－が制度化されるのが望ましいことはいうまでもない。さらに，身近な相談相手としての小児科医，産科医，小児歯科医，保健師，助産師，心理カウンセラー，ソーシャル・ワーカー等の専門家による養育・育児相談機関（多機能型子育て支援センター等）の新設・充実もまた，今後の課題となるだろう。

図9は今回の研究の結果，考えられるモデル図であり，これについて概説する。図10においては上に述べたように父（夫）－母（妻）－子どもの3者関係を示していて，お互いの心身状態の良否が相互に影響を与えあっている状態であり，このトライアングル自体がひとつの要因となっていることをあらわしていた。今回の研究から示されたのはこうしたトライアングルが考えられると共に，父親の機能という点からみれば，母子関係，子どもを保護することに，そして夫という機能からみれば妻を保護するということであり，その背景に男性性があること，さらに，おおもとには自己の親子関係があること，以上から図9のモデルもまた有効ではないかと考えられる。

今回の SCT の分析においても，図式化は同様ではないかもしれないが図９のように考えることができ，相互に補完，あるいは裏付けて発展させたという点において評価できる研究成果であり，このことから本チーム研究６年間の一連の研究の意義があると考える。

（４）父子関係における男性性の意義

これまでの知見から次のようなことが考えられる。

１）男性性は男子として生を受けて以来，男子として育てられる中で獲得される。そのモデルは父親である。

２）それに対して夫役割，父親役割はそれぞれ結婚して夫婦となること，そして，子どもを得てはじめてそれぞれの役割が発揮されるようになる。

３）こうしたことから男性性は男としての生物学的なものを基盤としており，他方，父親としての役割は心理・社会的なものから生じるといえる。

４）言いかえると，男性は男性性を基盤にして，家庭生活を送り，また，乳幼児期から思春期，青年期を通して，多くは同性友人の中で過ごすことで男性性を充実させることができ，この男性性は，その後の，夫役割，父親役割を担うために必要な基盤になるものと思われる。

５）男性性の基本的なものは他者を守る保護機能であり，その延長線上に妻を守る，子どもを守るという保護機能を発展させていると考えられる。

６）夫役割，父親役割において機能不全を起こすということは，男性性の獲得の過程における何らかの障害が想定される。これは，子どもの頃の自己像のあり方や，自己の親との関係の悪さ，将来展望の悪さ，ストレス耐性が低く，友人等への依存ができず，ストレスマネージメントに問題を抱えるといった，SCT でネガティブな評価を示す対象者たちの特徴から裏付けられるものである。

７）父親の育児不安を考える際には，以上の諸点を考慮に入れておく必要がある。

８）母親は妊娠，出産することで女性性を再確認し，女性としての誇り，自尊感情（男性にはなしがたい事業の達成感）が喚起されること，そのことが，母性を引き出し，子どもを保護，養育する心性を導き出すものである。

９）母親が機能不全を起こすのは，子どもの頃のネガティブな感情，親子関係の不全感，結婚そのものの失敗感，妊娠，出産による女性としての達成感が得られず，誇りを持てないこと，その上での，子どもとの関係形成のまずさが認められる。加えて，夫から自分や子どもが保護されているという実感を得ることができず，ここに育児不安の発生の可能性が生じると考えられる。

（５）父親機能の発達モデル

図 11 に父親機能の発達のモデルを図式化して示した。真ん中の横に延びる右方向への矢印（「出生から」）は年齢の進行を示す。この矢印に右下方向矢印，左上方向矢印はともに，父親機能の発達に影響を与える要因や発達期を示す。この右下方向矢印，左上方向矢印に対して右方向矢印が向かっているが，この要因に影響を与える内容・発達期である。これらの時期を通して，健全な発達をとげれば，父親準備性が獲得され父親機能は発揮される。しかし，この要因，とりわけ，乳幼児期の親子関係において躓きが生じた際に，結婚し，子どもを得たときに父親機能が発揮されにくくなる可能性も考えられる。こうしたモデルから父親機能の発達を理解していくことで，父親の育児不安を明らかにしていくことの可能性が考えられる。

（６）子どもの機能

今回の SCT の内容分析で，子どもからの親への働きについポジティブな親たちからの回答が寄せられていることがわかった。それは，子どもが元気づけてくれる，夫婦の間に入ってくれる（仲介），子どもが生まれたことにより自身の生き方，考え方，人生そのもの等がプラスの方向に変化がみられたことである。子どもは一方的に保護され，養育されるだけでなく，家庭内において重要な役割を担うメンバーの一員であり，これを親が認識できるかどうかである。これによって，しつけ面，養育等のさまざまな子どもとの関係への対応の仕方が異なってくると推測される。

３．父親の育児不安を想定させる研究知見—父親の育児不安研究にむけて—

（１）選択式質問項目と F･SCT 項目とのクロス集計から

「夫・父親として苦悩することが多い」と「ひとりでいることが苦痛で耐えられない」　「思い通りに行かないと情緒的に混乱した反応を示し心理的な困難を抱える」　「子どもとの関係を否定的にとらえる。」との間に有意な関連を見いだした。

一方，「夫・父親として苦悩することがない」と，「妻との関係を肯定的に捉える」　「しつけも適切になされ」「子どもとの関係を肯定的に捉える」　「思い通りに行かないときも適切に対応する。」との間に有意な関連が認められた。

従って，「夫・父親としての苦悩」は父親の育児不安を構成するひとつの心性として捉えうると考えられる。

（２）パーテイション法による F･SCT 間の関連についての分析から

自己男性像を否定的に認識している父親は，家族，夫婦関係に，そして子どもとの関係も否定的である。更に，男性像が否定的で，暴力的であり，偏ったしつけの仕方，そして子どもとの関係がよくないというパターンを有する父親がいる。母親の育児不安には「子どもへのネガティブな感情・攻撃性・衝動性」という心性があり，虐待のハイリスク要因と考えられる。父親の育児不安にもこ

のような心性が認められるか，検討課題としたい。

（3）F･SCTとM･SCT反応の比較検討から

「子どもと私は」への反応は，父母共に肯定度は約70%の比率を示している。一方，否定的な反応は父親の方が高く（父親10.0%，母親1.6%），ここに父親の育児不安が反映されている可能性を考えられる。また，「子どもは私を」への反応について，父親に否定的な反応が多い（父親23.7%，母親6.5%）。子どもとのどのような関係のありようが父親を子どもが否定的に捉えているとするのか検討課題であるが，ここにも父親の育児不安との関連が想定される。

4．父親･男性研究第Ⅰ報から第Ⅵ報における分析を通して

今年度を含めて通算6年にもおよび，様々な分析，とりわけ数量的な分析を主に行い，そして，昨年度（手法は数量的であるが分析自体は質的分析），今年度と質的な分析を行ってきたが，いずれにせよ，異なる手法でもおおむね共通する父（母）親役割観，男（女）性性，夫（妻）像が得られたことは注目に値すると考える。もちろん，研究対象者が同一であり，みる角度が異なっているだけであるから，同じ結果が出ても良いともいえるが，それぞれの分析手法の長短を考慮に入れつつ，今後の父親の育児不安研究を行っていくための手掛かりを得たことは、大きな収穫といえる。

なお，これまでの研究を通してわれわれが作成したSCT＜子ども総研式・親子関係文章完成法検査（父親版・母親版（JCFRI-P&C-SCT：F･SCT，M･SCT），2007-ⓒ＞について，その項目内容は心理臨床場面において親子関係や夫婦関係，家族関係，これらを取り巻く諸要因等をとらえるのに適切な方法であるといえるものであり，今後，このSCT法が心理相談，乳幼児健診等で活用されることを期待したい。

以上，今後の父親の育児不安研究に向けて，ここに示された研究知見をもとに，その心性及び，発生関連要因について明らかにし、父親支援・援助のための臨床的有用性の高い研究を進めたい。

謝辞　本研究をすすめるに当たりご協力いただいた各地域の小児科，保育園，幼稚園の先生方，そして，お父さん，お母さんたちに深く謝意を表したい。

注記：子ども総研式・親子関係文章完成法検査（父親版・母親版（JCFRI-SCT：F･SCT，M･SCT），2007ⓒ）は，日本子ども家庭総合研究所･愛育相談所に著作権があります。許可なく市販等に利用したりすることはできません。また，研究や心理相談，乳幼児健診等で利用される際にはあらかじめ本研究所・愛育相談所宛，ご連絡ください。

文献：

1）川井　尚ほか：父親・男性研究Ⅰ－父親用文章完成法（F･SCT）の作成－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第38集，203-215，2002.

2）川井　尚ほか：父親・男性研究Ⅱ－両親の回答比較から－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第39集 237-251，2003.

3）川井　尚ほか：父親・男性研究Ⅲ－F･SCT（父親用文章完成法）による検討－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第40集　165-187，2004.

4）川井　尚ほか：父親・男性研究Ⅳ－M･SCT（母親用文章完成法）による検討　F・SCT（父親用）との比較を含めて－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第41集 175-201，2005.

5）川井　尚ほか：父親・男性研究Ⅴ－父親の役割に関する基礎的研究－母親の役割とも比較して－，日本子ども家庭総合研究所紀要，第42集　177-194，2006.

6）育児における父親の役割に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるにあたっての母子保健事業策定に関する研究」（平山宗宏主任研究者）平成元年，2年，3年度研究報告書

7）育児における父親の役割と保健指導に関する研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ：厚生省心身障害研究「少子化時代に対応した母子保健事業に関する研究」（日暮眞主任研究者）平成4年，5年，6年度研究報告書

8）川井尚：育児における父親の役割，小児保健研究，1992;51(6):671-680

9）川井　尚：父親面接．心と体の健診ガイド－幼児編－．日本小児科学会・日本小児保健協会・日本小児科医会編．日本小児医事出版社．57－60．2000

10）二木　武監訳　ボウルビィ　母と子のアタッチメント　心の安全基地，医歯薬出版株式会社，1993

11）日本子ども家庭総合研究所・愛育相談所編著　母親用育児不安評定尺度「子ども総研式・育児支援質問紙」（0～11ヶ月，1歳児用，2歳児用，3～6歳児用），「子ども総研式・育児支援質問紙の利用手引き」，2002

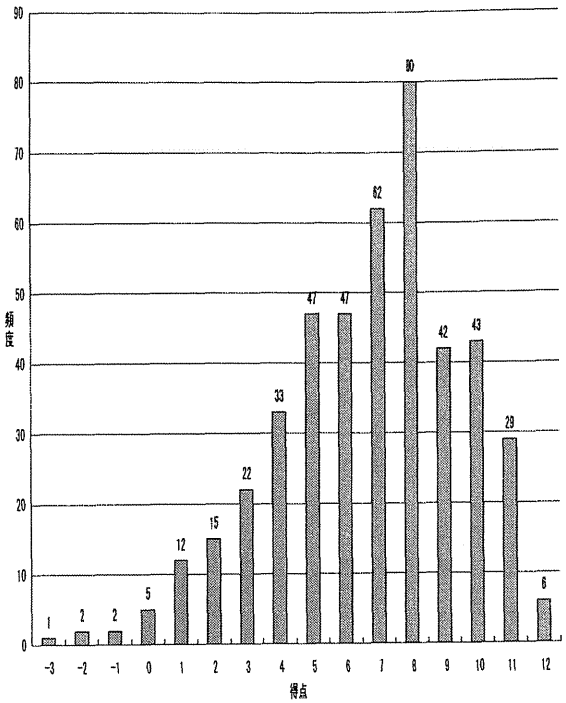

図１　父親　領域Ⅰ　育児を含む父子関係

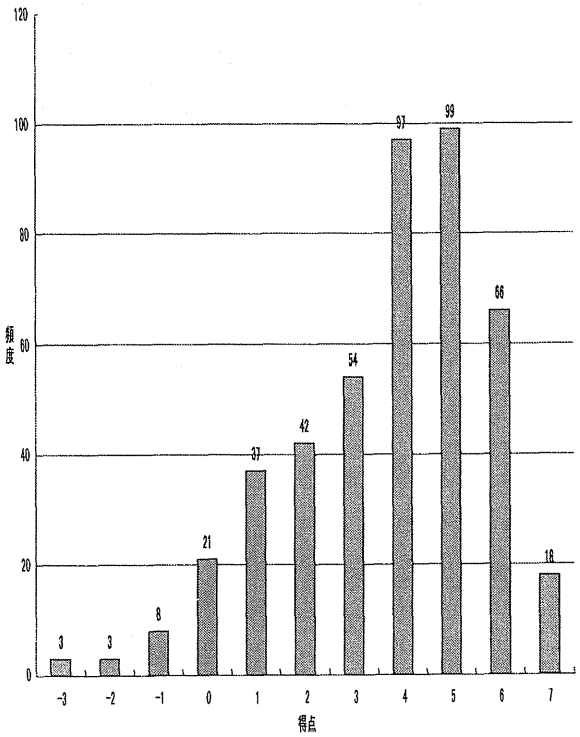

図２　父親　領域Ⅱ　家族・夫婦関係

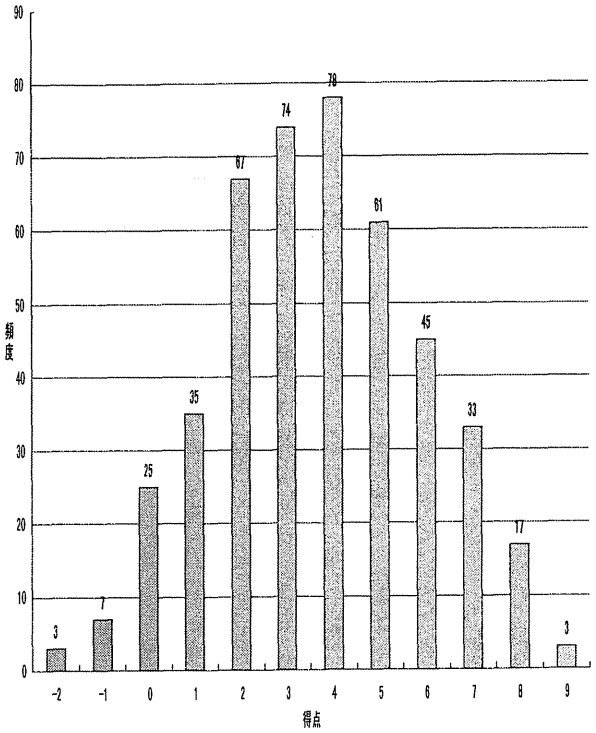

図３　父親　領域Ⅲ　父親自身

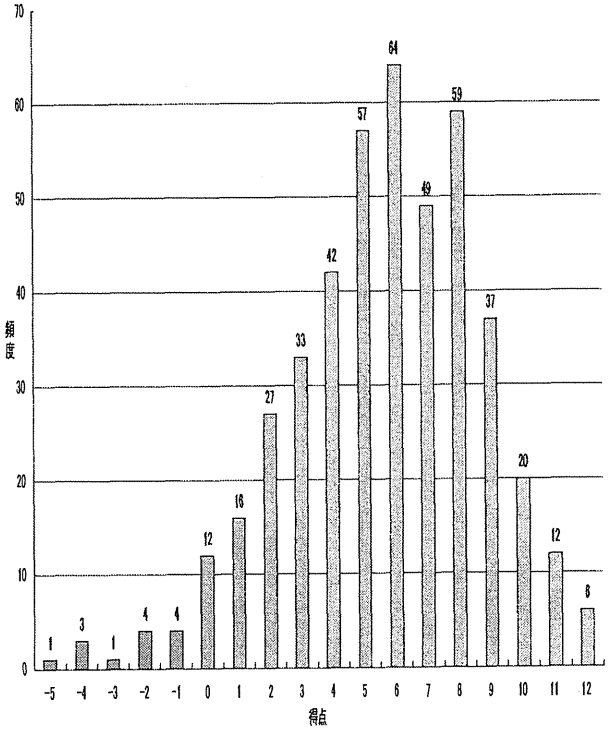

図４　母親　領域Ⅰ　育児を含む母子関係

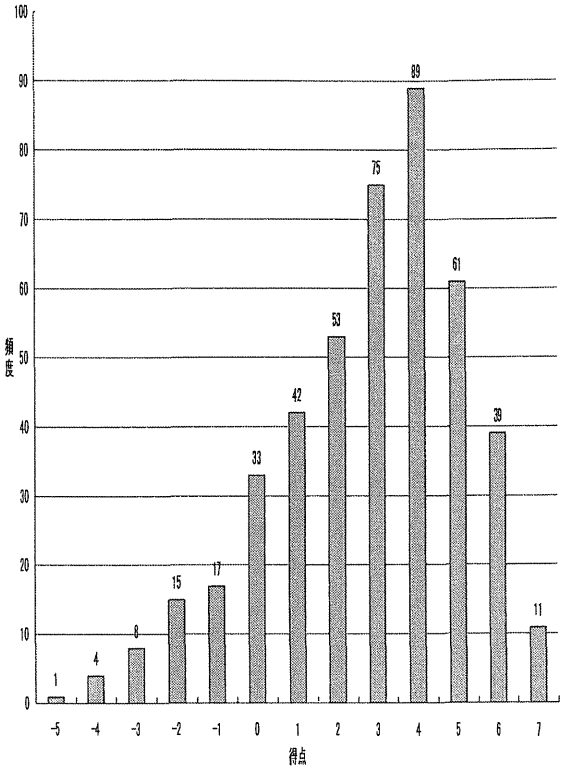

図5　母親　領域Ⅱ　家族・夫婦関係

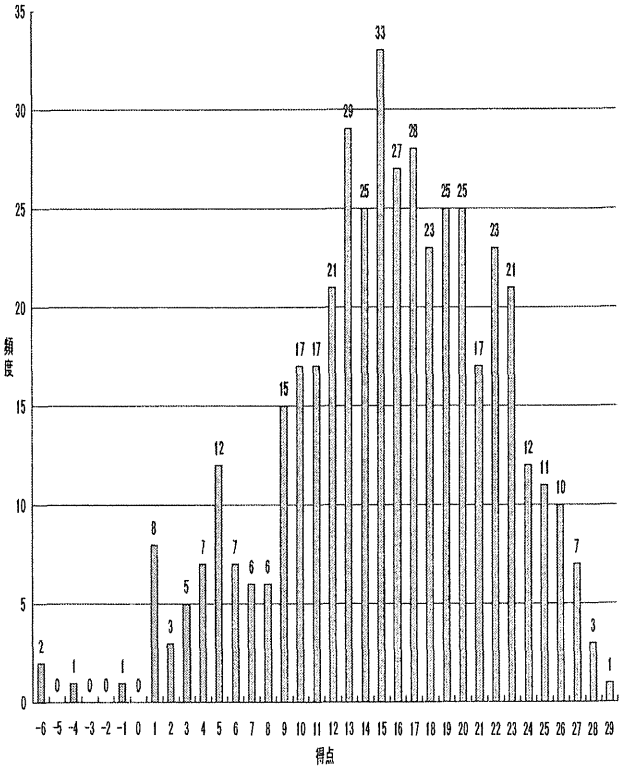

図7　父親版　全体

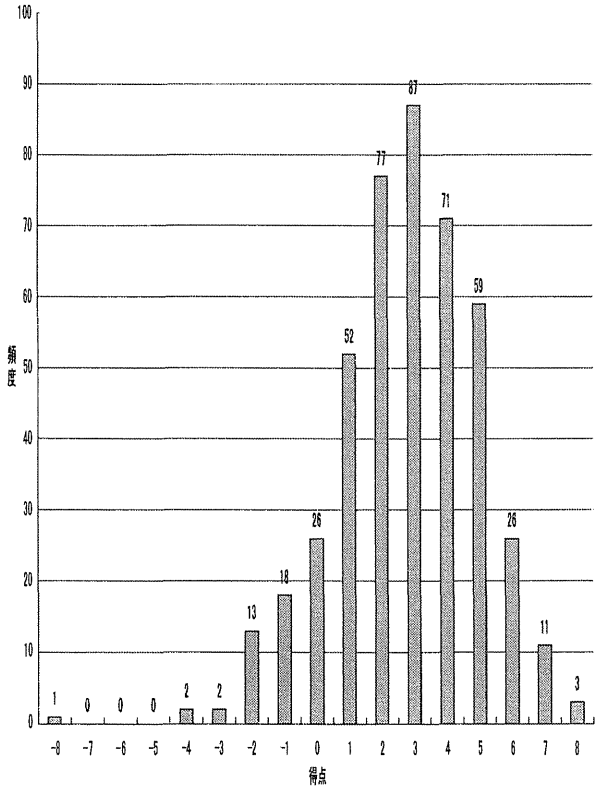

図6　母親　領域Ⅲ　母親自身

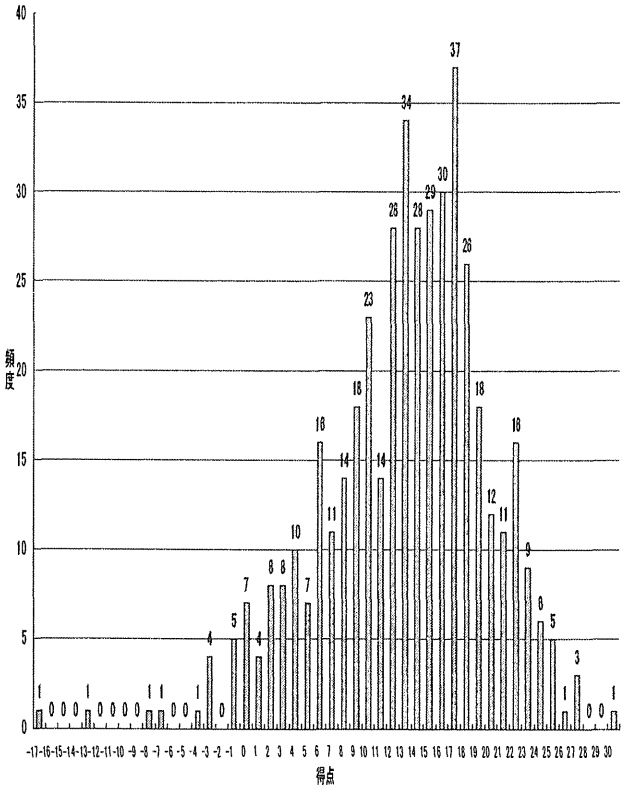

図8　母親版　全体

表１　父親　全体（ネガティブ得点の高点順）

fsample	合計	全体＋１	全体０	全体－１
p0151f	-1.00	11	9	12
d0016f	-6.00	4	18	10
p0079f	-6.00	4	18	10
p0004f	-4.00	6	16	10
p0037f	5.00	15	7	10
d0010f	2.00	10	14	8
g0010f	5.00	13	11	8
p0057f	6.00	14	10	8
p0167f	1.00	8	17	7
p0098f	4.00	11	14	7
p0099f	4.00	11	14	7
p0131f	4.00	11	14	7
p0174f	4.00	11	14	7
h0010f	5.00	12	13	7
p0033f	5.00	12	13	7
p0142f	5.00	12	13	7
m0013f	6.00	13	12	7
p0123f	6.00	13	12	7
p0054f	8.00	15	10	7
b0001f	10.00	17	8	7
p0013f	10.00	17	8	7

表２　母親　全体（ネガティブ得点の高点順）

msample	合計	全体＋１	全体０	全体－１
p0174m	-17.00	5	5	22
p0077m	-13.00	5	9	18
d0005m	-8.00	7	10	15
d0014m	-7.00	7	11	14
p0080m	-3.00	11	7	14
p0147m	-3.00	11	7	14
d0016m	-1.00	12	7	13
p0131m	-1.00	11	9	12
p0168m	0.00	12	8	12
d0015m	-3.00	8	13	11
p0167m	1.00	12	9	11
h0007m	-4.00	6	16	10
m0003m	-3.00	7	15	10
e0025m	-1.00	9	13	10
k0004m	-1.00	9	13	10
g0011m	0.00	10	12	10
p0082m	1.00	11	11	10
a0059m	2.00	12	10	10
l0010m	0.00	9	14	9
e0013m	4.00	13	10	9
p0068m	6.00	15	8	9
p0102m	7.00	16	7	9
p0179m	8.00	17	6	9

表３　F・SCTの主な反応
◇反応分類評定（＋、±、－のないものはニュートラル）

A	情緒性	A+, A±,A－,A
B1	情緒的な関係	B1+, B1±,B1－, B1
B2	叙述的な関係	B2+, B2±, B2－, B2
B3	相互的な関係	B3+, B3±, B3－, B3
C	叙述、考え方	C+, C±,C－, C
D	困惑、当惑	D
E	その他	E+,E±,E－, E
R	回答拒否	R
F	回答失敗	F

表4　F・SCT　ポジティブ群の主な反応

表4-1　領域Ⅰ　育児を含む父子関係の領域

項目	主な反応	コード	出現率（%）		
			ポジティブ (n=21)	最頻値 (n=15)	ネガティブ (n=4)
2. 子育ては_____	①大変だが楽しい	A+	28.6	53.3	25
	②大変	A±		6.7	25
	③楽しみだが心配	A±	4.8		
	④夫婦協力・共同作業	B2+	19	6.7	
	⑤親の成長、生活の一部、日常生活、一生のこと	C			
	⑥自論	C+	38.1	20	
	⑦大事・重要・責任	C±	4.8	6.7	
	⑧難しい	C±		6.7	25
	⑨難しいけど重要	C±			
	⑩参加なし・妻任せ	C−	4.8		
	⑪休日一緒にいるとストレス	A−			25
5. しつけ_____	①普通・人並みに・しつけと言いたくない	C		6.7	
	②教える・身につけさせる	C+	38.1	20	25
	③重要・大切	C+	23.8	33.3	50
	④しっかり・厳しく	C+	9.5		
	⑤厳しさと、愛情で	C+	14.3	6.7	
	⑥親の責任・お手本	C+	14.3	6.7	
	⑦難しい	C±		26.7	25
	⑧悩むことがある・考えてしまう	D			
6. 子どもと私は_____	①幸せ・楽しい	A+		13.3	
	②仲がよい（よくなりたい）	B1+	23.8	26.7	25
	③友だちのよう	B2+	23.8	20	
	④コミュニケーションをとり、理解	B3+	14.3		
	⑤信頼関係	B3+	14.3		
	⑥よく遊ぶ	B3+	9.5		
	⑦親子、似ている	C		13.3	25
	⑧何でも話し合える関係でありたい・スキンシップをとりたい	C＋	14.3		
	⑨仲がよい時もあるが難しい	B1		6.7	
	⑩仲良いが何をして遊べばいいのかわからない	B1±		6.7	
	⑪なかなか一緒に遊ぶ時間がない	B3−		6.7	
	⑫一緒にいる時間が短く、もっと時間を作ること大切	C±		6.7	
	⑬仲が悪い	B1−			50

11. 私にとって子どもは_____	①かわいい・楽しい存在	A+			
	②子ども・生活の大半を占める存在	C			25
	③宝物	C+	33.3	20	
	④大切	C+	19	33.3	25
	⑤かけがえのない存在・守る	C+	33.3	26.7	25
	⑥生き甲斐	C+	14.3	20	
	⑦重荷に思うことがある・空気のような存在	C±			25
12. 子どもが生まれてから_____	①うれしい	A+	9.5		
	②妻との会話がふえた・よい関係に	B2+	4.8	13.3	
	③子どもと共に成長	B2+	4.8		
	④子ども中心の生活に－うれしい、仕方ない、生活パターンの変化	B2±	4.8	6.7	
	⑤充実した	C+	19	13.3	
	⑥価値観・人生観の変化	C+	42.9	53.3	
	⑦妻とふたりの時より明るくなった	C±	4.8	6.7	
	⑧ほっとかれる	C－			
	⑨変わらない	E			
	⑩毎日忙しい・月日が短く感じる	C	9.5		
	⑪幸せ、でも大変	A±		6.7	
	⑫大変	A－			50
	⑬妻との仲が悪くなった	B1－			25
	⑭自由でなくなる	C－			25
14. 子どもといると私は_____	①安らぐ・和む・ほっとする・暖かい・心豊か・やさしい・ゆっくり・幸せ・楽しい	A+	66.7	46.7	
	②イライラする時もあるが楽しい時もある	A±	9.5	13.3	50
	③イライラ・おこりっぽい	A－			25
	④遊び・話したい	B3+	4.8		
	⑤自分の子どもの頃を思い出す	C+	14.3	33.3	
	⑥子どもっぽい・子どもになる・普通に生きている	C±			
	⑦何をしても楽しいということを理解してほしい	C	4.8		
	⑧スキンシップをはかるが、逆に嫌なようでなついてくれない	B3±		6.7	
	⑨疲れる	C－			25
18. 子どもにとって私は_____	①遊び相手・父親であり、友達である	B3+	9.5		
	②父親である・父親であり、友達である	C		26.7	25
	③大切な存在（存在でありたい、守りたい、支えたい）	C+	28.6	20	
	④必要な人でありたい	C+	14.3	6.7	
	⑤必要不可欠な宝物・頼りになる人・尊敬に値する人・かけがえのない人・ヘッドコーチ	C+	23.8	13.3	

	⑥お手本	C+	9.5	6.7	
	⑦やさしいが怖い父親	C+			
	⑧こわい存在・甘い親	C±		6.7	
	⑨甘いスポンサー	B2+	4.8		
	⑩優しく面白いが怒るとこわい存在	B2±	4.8		
	⑪まだよくわからない	D	4.8		
	⑫やさしい父親なのか、すぐ怒る父親なのか	D		6.7	
	⑬もっと一緒にいるべき	E		6.7	
	⑭必要とされている	B2+			25
	⑮いなくてもいい存在	B2－			25
	⑯必要かどうかわからない	D			25
	（回答拒否）	R		6.7	
22. 子どもは私を＿＿＿	①大好き	B1+	19	6.7	
	②頼りにしている・必要としている	B2+	33.3	6.7	
	③遊び相手	B3+	14.3	6.7	25
	④パパと呼ぶ・見ている・こわいと思っている・知っている	C		26.7	
	⑤父親として頼ってほしい	C+	23.8	6.7	
	⑥どのようにみているのか・どう思っているのか・好きなのだろうか	D	4.8	13.3	
	⑦仕事が大変で家にいない事をわかってくれていると思う	C±	4.8		
	⑧父親と認識しているようで嬉しい	A+		6.7	
	⑨好きだと思うが…	B1		13.3	
	⑩甘く見ているかも	B2±		6.7	
	⑪嫌い	B1－			25
	⑫都合よく利用している	B2±			25
	（回答拒否）	R		6.7	25
23. もしも子どもが＿＿＿	①病気・けが・事故が心配	A+	9.5	13.3	
	②いなくなったら（ひどいショック、心に空洞、人生真暗、etc）	B1+		13.3	25
	③いなければ（全く別の人生、つまらない人生）	C+	14.3	13.3	
	④犠牲を払っても守る・相談にのる	C+	57.1	13.3	
	⑤他人に迷惑をかけたら許さない	C±			
	⑥海外で暮らすなら私たちも暮らしたい	E+	4.8		
	⑦嫌いな人がいるなら人間失格	E	4.8		
	⑧将来グレたら・もう一人できたら	C		13.3	
	⑨死んでしまったら・病に倒れたら全て投げ出せるだろうか	D		13.3	

	⑩自分より背が高くなったら・女の子だったら	E		13.3	
	⑪いなかったら自由だなと思い、いて良かったと思い直す	C±			25
	（回答拒否）	R	4.8	6.7	50
	（回答失敗）	F	4.8		
26. 子どもがいうことをきかないと ＿＿	①イライラする・ムカつく	A−		6.7	25
	②イライラして手が出る・腹立たしく叩く・なぐってもいうことをきかす・感情的に当る、 感情的になる	B1−		13.3	25
	③意味・原因を考える・話し合う	C+	38.1		
	④怒る・叱る	C±	14.3	33.3	50
	⑤いいきかす・説明する・説き伏せる・厳しくいいつける	C±	47.6	13.3	
	⑥ほっとく、しょうがない	C±		6.7	
	⑦困る	D		20	
	（回答拒否）	R		6.7	
29. 子どもの気持ち ＿＿	①気持ちをよく考えて行動・接したい	B2+	14.3	6.7	25
	②大切にしよく聞いて、理解したい・汲みとりたい	B2+	52.4	6.7	
	③尊重したい	C+	28.6	73.3	
	④複雑	C±	4.8	6.7	
	⑤分かるようで分からない・時に想像し難い・分からなくなる時がよくある	D			25
	⑥分っているが答えられない・大切にしたいが現実は難しい	B2±		6.7	25
	⑦ 言うとおりにしていられない	C±			25
15. 妻と子どもは ＿＿	①仲がよい・うまくいっている	B1+	57.1	20	25
	②仲がよくて羨ましい	B1±		20	
	③友達のよう・子どもにとって妻は絶対的存在	B2+	9.5		
	④大切な宝物・財産・オアシス	C+	14.3	20	
	⑤密接・愛情の強い絆	C+	4.8	20	
	⑥似ている	C			
	⑦一番の理解者・何でも話し合える良い関係	B3+	9.5		
	⑧妻は子どもの良い手本	E+	4.8		
	⑨いつも真剣勝負	B3±		6.7	
	⑩皆女性	C		6.7	
	⑪私の一部	C		6.7	
	⑫うまくやっているが、妻厳しい	B2±			25
	⑬いて良かったかな？	C±			25
	⑭厄介者	C−			25

表 4-2　領域Ⅱ　家族・夫婦関係の領域

項目	主な反応	コード	出現率（%）		
			ポジティブ（n=21）	最頻値（n=15）	ネガティブ（n=4）
31. 私にとって家族は_____	①あったかく大きいもの・やすらぎの場	A+	4.8	6.7	
	②人生である・ひとつ・私そのもの	C		13.3	
	③大切・大事な存在。宝物	C+	52.4	40	
	④生き甲斐・かけがえのないもの	C+	19	26.7	
	⑤守るもの	C+	4.8		
	⑥生きるのになくてはならないもの・支え	C+	19	6.7	
	⑦大事なことでもあり、大変なことでもある	C±			
	⑧重要でない、共同生活者	C±			25
	⑨何なんだろう	D			25
	（回答拒否）	R			25
	（回答失敗）	F		6.7	25
4. 妻と私は_____	①楽しく・幸せ	B1+	4.8	6.7	
	②子育ての不一致	B2−			
	③子ども中心すぎる	B2±		6.7	
	④補完関係・親友・人生のパートナー・共に生きる	B3+	38.1	13.3	
	⑤変わらぬ関係・よい関係・助け合い・仲良く	B3+	33.3	40	25
	⑥夫婦、似ている	C	4.8	20	
	⑦夫婦は他人	C		6.7	
	⑧共通の価値観・共通の趣味で	C+	19		
	⑨よく分からない	D			
	⑩対等に家事・育児をしているが妻のほうに負担か	C±		6.7	
	⑪お互いに不満ある	B3−			25
	⑫考え方が違う	C−			25
	（回答拒否）	R			25
21. 妻が病気になると_____	①心配・困る・大変・不安	A±	28.6	66.7	75
	②家族全員暗く・笑い半減・バランス崩れる	A±	9.5	6.7	
	③誰が面倒をみるか考える・考えないようにしている	C		6.7	
	④かばう・世話する・看病・家事をする	C+	33.3	6.7	25
	⑤普段の大変さを知る・母親の存在を改めて知る	C+	19	6.7	
	⑥家の中の灯りが消えたようになるしかし一方で子どもは成長する・困るがその時は何とかする	C±			
	⑦全ての機能がストップする・私は忙しくなる	C−	4.8		
	⑧どうすればいいのだろう	D		6.7	
	⑨自分に何ができるか考え、休ませる	A+	4.8		
30. 性生活_____	①いまいち・不満だらけ	A−			25
	②楽しい	A+			25
	③相手を思いやる・気持ちを考える	B1+	9.5		
	④少ない・余りない	B2±		6.7	
	⑤大切なコミュニケーション・愛情表現の１つ・お互いの理解・慈しみ合う気持ちの表れ	B3+	42.9	6.7	
	⑥人によって異なると思う・普通	C	4.8	6.7	
	⑦大切・大事・重要	C+	33.3	46.7	
	⑧子どもが生まれてから思うようにいかない	D		6.7	
	⑨お互い判断した時は認める	B2+	4.8		
	⑩ほどほどに	B2+		13.3	

	⑪可もなく不可もなく	C±		6.7	
	⑫もっと刺激があってもよいか	A±			25
	⑬できるだけもつように気をつけている	C±			25
	（回答拒否）	R	4.8		
	（回答失敗）	F		6.7	
32. 妻とふたりでいると＿＿＿	①安らぐ・楽しい・落ちつく・ホッとする・安心・リラックス・幸せ・和む	A+	38.1	26.7	
	②昔を思いだす・前は幸せだった	A±	4.8	6.7	
	③余り話さない	B2－			
	④いつも子どものことを話す・考える	B3+	33.3	6.7	
	⑤ぎくしゃくしている	B3－			
	⑥ふたりきりがなくなった（主に子どもが生まれてから）	C	9.5	6.7	
	⑦話をしたい・子どもといる時と違った楽しみ方	B2+	9.5		
	⑧照れて口数減るがこれからは話をしようと思う	C+	4.8		
	⑨常に会話・恋人同士	B2+		13.3	
	⑩時々けんか	B3±		13.3	
	⑪良い話相手・やりたい事をさせてあげたい	C+		13.3	
	⑫いびきがうるさい	E		6.7	
	⑬気まずい	A－			25
	⑭たまにはのんびりでかけたい	B3±			25
	（回答拒否）	R			25
	（回答失敗）	F		6.7	25
17. 私の居場所は＿＿＿	①書斎・自室	C	4.8		
	②家庭・家族・家	C+	33.3	53.3	
	③仕事（職）場と家庭	C+	47.6	33.3	
	④自分のイス・たたみ一畳	C±	14.3	6.7	
	⑤車庫、車の中など	C－			
	⑥ない	C－			100
	⑦どんなものか分からない	D			
	⑧とても心地よいもの	A+		6.7	
20. 家にいると＿＿＿	①心身休まる	A			
	②やすらぐ・ホッとする・落ちつく・安心・くつろぐ・のんびり・和む・幸せ・楽しい	A+	71.4	53.3	
	③安らぐこともあり、疲れることもある・落ちつく時とイラつく時と	A±	9.5	6.7	25
	④のんびりできない	A－		6.7	25
	⑤いらいらしやすい	A－			
	⑥妻と子と一緒で幸せ・コミュニケーションが沢山とれる・とりたい・理解深めたい	B1+	14.3	6.7	
	⑦忙しい	C		13.3	
	⑧充実	C+	4.8		
	⑨一人の時間が作れない・仕事のことが頭からはなれない	C－		13.3	
	⑩疲れる	A－			25
	⑪子どもと遊ぶ	B3+			25

表 4-3　領域Ⅲ　父親自身の領域

項目	主な反応	コード	出現率（%）		
			ポジティブ (n=21)	最頻値 (n=15)	ネガティブ (n=4)
1. 子どもの頃私は＿＿＿	①幸せ・楽しかった	A+	4.8	6.7	
	②よくない思い出	A−			25
	③いろいろあった、かわいかった、ふとっていた、やせていた	C			
	④活発・元気・やん茶・いたずらっ子	C+	85.7	40	25
	⑤いい子・素直な子・静かな子・従順	C±		20	
	⑥引っ込み思案・おとなしい・泣き虫・弱虫・人みしり	C±	4.8	20	25
	⑦両親不仲	C−	4.8	13.3	
	⑧人と遊ぶのが嫌	A−			25
3. 将来、私は＿＿＿	①（自分が）人生楽しく・夢の実現・～・～したい	A+	19	13.3	
	②家族でゆっくり・楽しく・～～したい・子ども・妻と～したい	B1+	19	20	
	③何も変わらない・年をとる・仕事を続けているだろう	C		13.3	
	④家族を守る・幸せに	C+	19	6.7	
	⑤子どもの手本に・尊敬される父親に	C+	14.3	6.7	
	⑥（自分が）ゆうゆうと・ゆっくり安定して・老後・隠居生活を	C+	28.6	26.7	
	⑦分からない・どうなることか	D		6.7	50
	⑧考えていたのはかなり以前	E		6.7	
	⑨孤独になるだろう	A−			25
	（回答拒否）	R			25
10. 私はひとりでいると＿＿＿	①愉快・楽しみ・幸せ・自由・ゆっくり・落ちつく・のんびり・ホッとする	A+	23.8	20	25
	②孤独・淋しい・気分が落ちる	A−		26.7	
	③忙しい	C			
	④夢を描く・想像する・いろいろ考える・空想する・物思いに耽る	C+	42.9	26.7	
	⑤ぼうっとしている・見たくないのにテレビをつける	C±	9.5		
	⑥じっとしていられない・何していいか分からない	D	14.3	6.7	
	⑦寝てしまう	E±	4.8	6.7	25
	⑧ストレスから開放、寂しさも感じる	A±	4.8		
	⑨必要以上に考え込む	C−		6.7	
	⑩どこかへでかけたくなる	E		6.7	
	⑪落ち着くときと寂しいときとある	A±			50

9. 私が感情的になるのは_____	①イライラしている時・怒った時	A−			50
	②ない	C	14.3	20	25
	③プライドを傷つけられたとき・筋が通らない・理不尽・納得がいかない	C+	57.1	13.3	
	④自分の欠点等指摘される・自分が責められたとき	C±	4.8	13.3	
	⑤思い通りにいかないとき	C±	4.8	26.7	
	⑥よくある	C−		6.7	
	⑦自分がこだわりをもちすぎて・自分が不甲斐ないから・意見等を表現できないとき	D	9.5		
	⑧具合が悪い・疲れたとき	E±	9.5	13.3	
	⑨自分の好きなことをやっている時	E		6.7	
	⑩遺伝	E			25
16. 私は男として_____	①普通	C		13.3	
	②家族を守る・支える・幸せに・大切に・頼りになる	C+	66.7	26.7	
	③子どもの手本・尊敬される父親に	C+			
	④責任感・自立	C+	33.3	40	25
	⑤責任感強いが消極的	C±			
	⑥足りない点が多い・どうなんだろう・もうひとつしっかりしてない・魅力がない	D		6.7	
	⑦男を感じない・動物的な男かも	E		13.3	
	⑧家庭のことやるが感謝されない	C±			25
	⑨失格	C−			25
	(回答拒否)	R			25
25. 困り果てたとき私は_____	①開き直る・忘れる・目前のことのみにしておき、ピンチをぬける・気をまぎらす・楽しいことを思い出す	A±	14.3	13.3	
	②妻と相談する	B2+	33.3	13.3	
	③友人、周りの人に相談する	B2+	14.3		
	④母親、両親に相談する	B2+		6.7	
	⑤もう一度原因を考える・再度試みる・前向きに取組む	C+	23.8	6.7	
	⑥運命、神仏に任す・すがる	C±			
	⑦自分ひとりで考える・ひとりで解決する	C±	14.3	20	25
	⑧投げだす・あきらめる・黙りこむ・何もする気がなくなる・どうなることかと思ってしまう	D		20	
	⑨他人に助けをもとめる	B2		6.7	
	⑩ポジティブに考えようと逃げ場所を探す	E±		6.7	
	⑪自分に嫌気がさす	E−		6.7	
	⑫逃げ出したくなる	A−			25
	(回答拒否)	R			50

27. 死ぬときは_____	①怖い・淋しい・幸せな人生と思えるかどうか	A±			
	②一人、死ぬ、しょうがない	C		20	50
	③家族に迷惑・家族に不安を与えないように	C+	23.8	13.3	
	④苦しまず・痛くなく・ぽっくり・あっさり・安らかに・寿命で・大往生で	C+	19	20	
	⑤幸せだったし・満足して・後悔しない人生で・やり残しがないように	C+	38.1	20	
	⑥家族に見守られて・自分が一番先に	C±	14.3	6.7	
	⑦考えたくない・考えたことない	D	4.8		
	⑧いつでしょう・考えたことない	E		13.3	
	⑨一緒	C+			25
	⑩…よく考える	E			25
	(回答拒否)	R		6.7	
19. 思いどおりにいかないと_____	①気分が落ち込むことがあるが前向きに気持ちを切り替える・イライラするがすぐ冷静になる	A±	9.5	6.7	
	②いらいらする・落ちつかない・腹が立つ・人に当たる・八つ当たり・身近なものを壊したくなる	A−	9.5	33.3	75
	③ゆううつに・落ち込む	A−			
	④頑張る・努力・工夫・トライ・成し遂げる・思う通りに何が何でもする	C+	19		25
	⑤原因追求・別の方法を	C+	42.9	6.7	
	⑥あきらめる	C±		6.7	
	⑦あたり前と思う・仕様がないと思う	C±		26.7	
	⑧反省する・自分の責任と思って	C±	14.3	6.7	
	⑨ストレスたまりお酒を飲む	C−	4.8		
	⑩考え込む・顔にでる	C−		13.3	
28. 暴力_____	①嫌い・悲しいこと	A+	4.8	13.3	25
	②よくないと思っても、暴力ふるって後悔・未熟さから手が出てしまう	B1−			
	③（暴力）的なテレビが多すぎる・感情を越えた時に起こるもの	C			
	④反対	C+	9.5	6.7	25
	⑤してはいけない・あってはならない・排除する・完全否定	C+	81	40	25
	⑥言葉の暴力もいけない	C+			
	⑦TPOで必要・時に必要な場面も・必要な時も	C±	4.8	26.7	
	⑧必要である	C−		6.7	
	(回答拒否)	R		6.7	25

表 4-4　Ⅳ　父親自身の親子関係の領域

項目	主な反応	コード	出現率（%）		
			ポジティブ（n=21）	最頻値（n=15）	ネガティブ（n=4）
8. 母と私は_____	①仲良し・うまくいっている・よい関係	B1+	28.6	13.3	
	②よい関係にない・否定される	B1－	0	6.7	75
	③できるだけコミュニケーションをとっている・つらい時を共に過ごしてきた戦友のような関係	B2+	23.8		
	④なかなかゆっくり話をすることができない・照れくさいせいかあまり話さない	B2±		6.7	
	⑤子離れできていない	B2－			
	⑥関わりがなかった・思い出がない・距離がある	B2－		6.7	25
	⑦よき理解者	B3+	23.8	6.7	
	⑧今、大人になってから信頼関係	B3±			
	⑨似ている（価値観、考え方、性質）	C	9.5	13.3	
	⑩一心同体	C		6.7	
	⑪親子	C		20	
	⑫会ってない	E			
	⑬仲は良くも悪くもない	B1±	4.8		
	⑭良い親子・これから力になりたい	C+	9.5		
	⑮よくけんかしたが、良い母親	B1±		13.3	
	⑯けんかが多かった	C－		6.7	
24. 父と私は_____	①仲が良い・うまくいっている・よき理解者同志・心が通い合って	B1+	38.1	6.7	
	②父を越えられず腹立たしい	B1±	4.8		
	③似ているといわれ、そう思いたくない・似ている自分が嫌	B1－			
	④愛情を感じない関係	B1－		6.7	25
	⑤ライバル	B2		6.7	
	⑥接触の機会がなかった・一緒の思い出がない・遊ばなかった・～しなかった	B2－		20	
	⑦話し合わなかった・余り話さない	B2－	4.8	6.7	
	⑧無関係・むずかしい関係	B2－		6.7	
	⑨似ている・だんだん似てくる	C	9.5	33.3	
	⑩忙しい	C			
	⑪父のことをよく分からない	D			25
	⑫良い友人・良き師弟関係・信頼しあっている	B2+	28.6		
	⑬お互い認め合っていた	B3+	4.8		
	⑭若い頃はぶつかり今は認め合う関係	B3±	4.8		
	⑮これからもよい関係でありたい	C+	4.8		
	⑯良きパートナーでありたい	B2+		6.7	
	⑰野球が好き	C+		6.7	
	⑱会いたくない	A－			25
	⑲親子	C			25

表 4-5　領域Ⅴ　社会（友人・仕事）の領域

項目	主な反応	コード	出現率（%）		
			ポジティブ（n=21）	最頻値（n=15）	ネガティブ（n=4）
7. 友人_____	①多いほうが楽しい・ホッとした気分になる	A+			
	②気をつかう	B1±			
	③希薄になりがち・家族との方が楽しみ	B2±		20	25
	④信じ合える・心通じる	B3+	4.8		
	⑤いる	C	9.5	13.3	25
	⑥少ない	C		6.7	
	⑦親友いない	C		6.7	
	⑧財産・大きい・かけがえのない	C+	61.9	13.3	
	⑨家族の次に重要・大切	C+	19	20	25
	⑩子どもも友人をつくり、大切に・子どもの成長に	C+		13.3	
	⑪たくさんほしいが仕事にかける時間が多く満足いかない・私用によって友人を使い分ける	C±	4.8		
	⑫本来の友人か	D			
	⑬会っていない	E		6.7	
	⑭必要な人としか付き合わない	C			25
13. 仕事_____	①つらい・あまり好きではない・将来に不安	A−			25
	②忙しい、普通	C		13.3	25
	③生き甲斐・やりがいのあるもの	C+	61.9	33.3	
	④なくてはならないもの・大切	C+	14.3	26.7	
	⑤家族・子どものため	C+	9.5	6.7	
	⑥仕事より家族が大切・家庭優先・家族はより重要	C+			
	⑦仕事も家族も大切	C+	9.5		
	⑧仕事と家庭の両立難しい	C±			
	⑨生活のための道具	C±	4.8	13.3	
	⑩（仕事を）終えて家に帰るのが楽しみ	A+		6.7	
	⑪しかたなく働く	C−			25
	⑫楽しいが時に放り出したい	A±			25

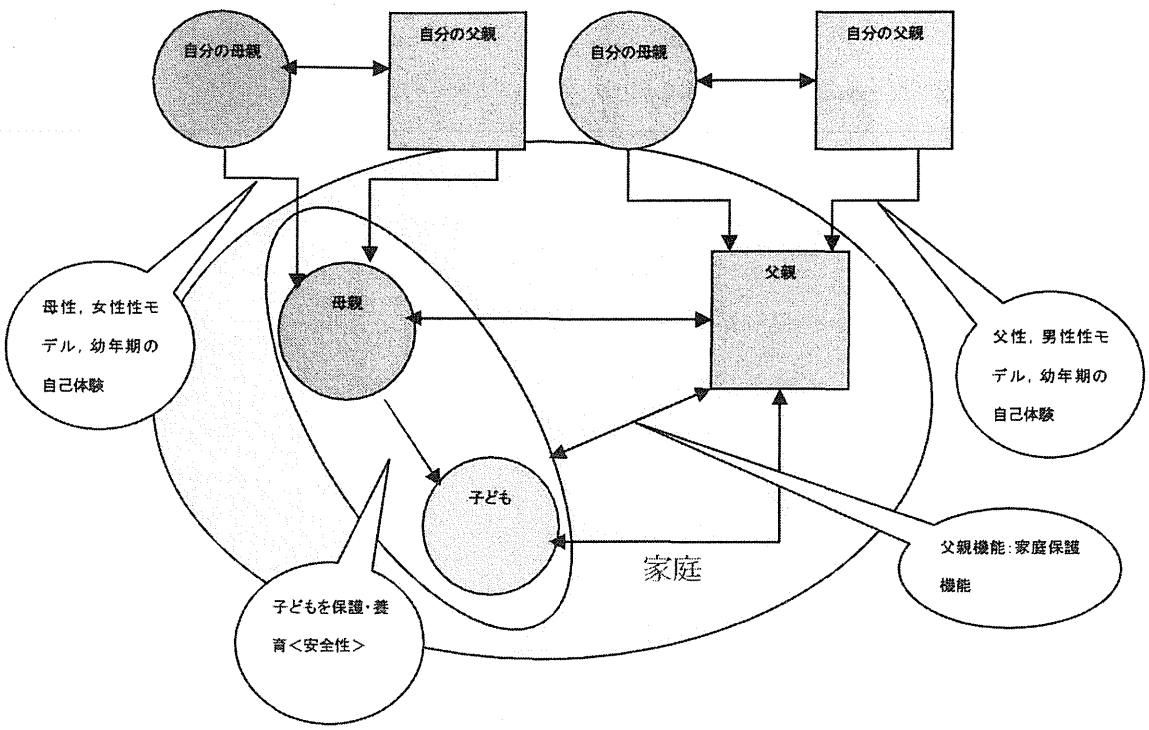

図９　父親役割

注：父親・母親・子どもの３者を含む横長楕円は家庭全体であり，これ全体を父親が父性や男性性により保護する役割を含めて示したものである。母親と子どもを含む斜長楕円は母子関係で母親の子どもに対する安全性を守る機能を意味する。それぞれの吹き出しはそこで生じていると思われる機能・役割などを示した。

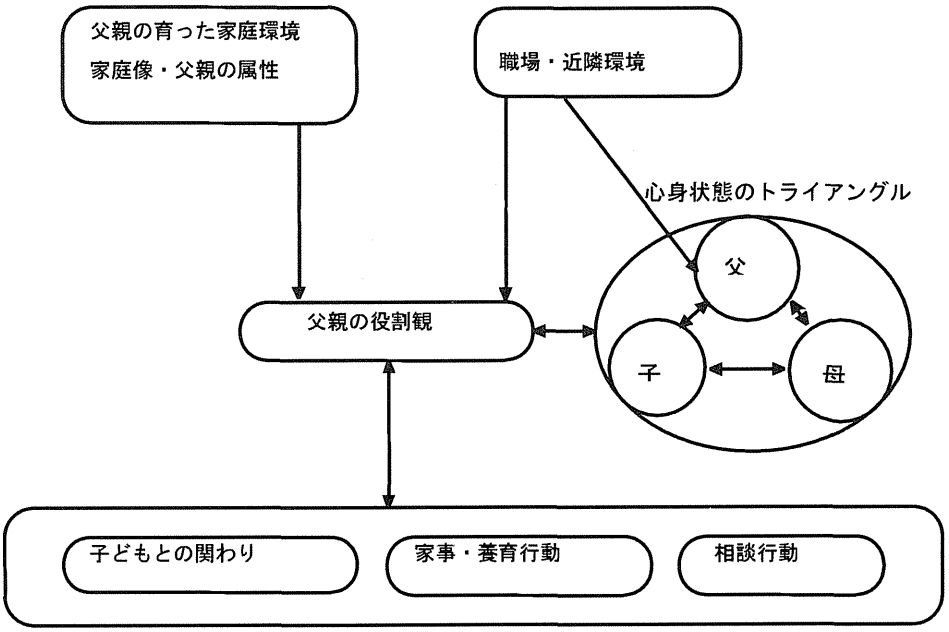

図10　平成６年度報告書から　父親機能に影響を与える要因図

注：父・母・子の３円を含む横楕円はその３者間で生じる心身状態の影響の与え方を示したものである。また，下部の丸角長四角はその中に含まれる父親の具体的な役割行動を示す。

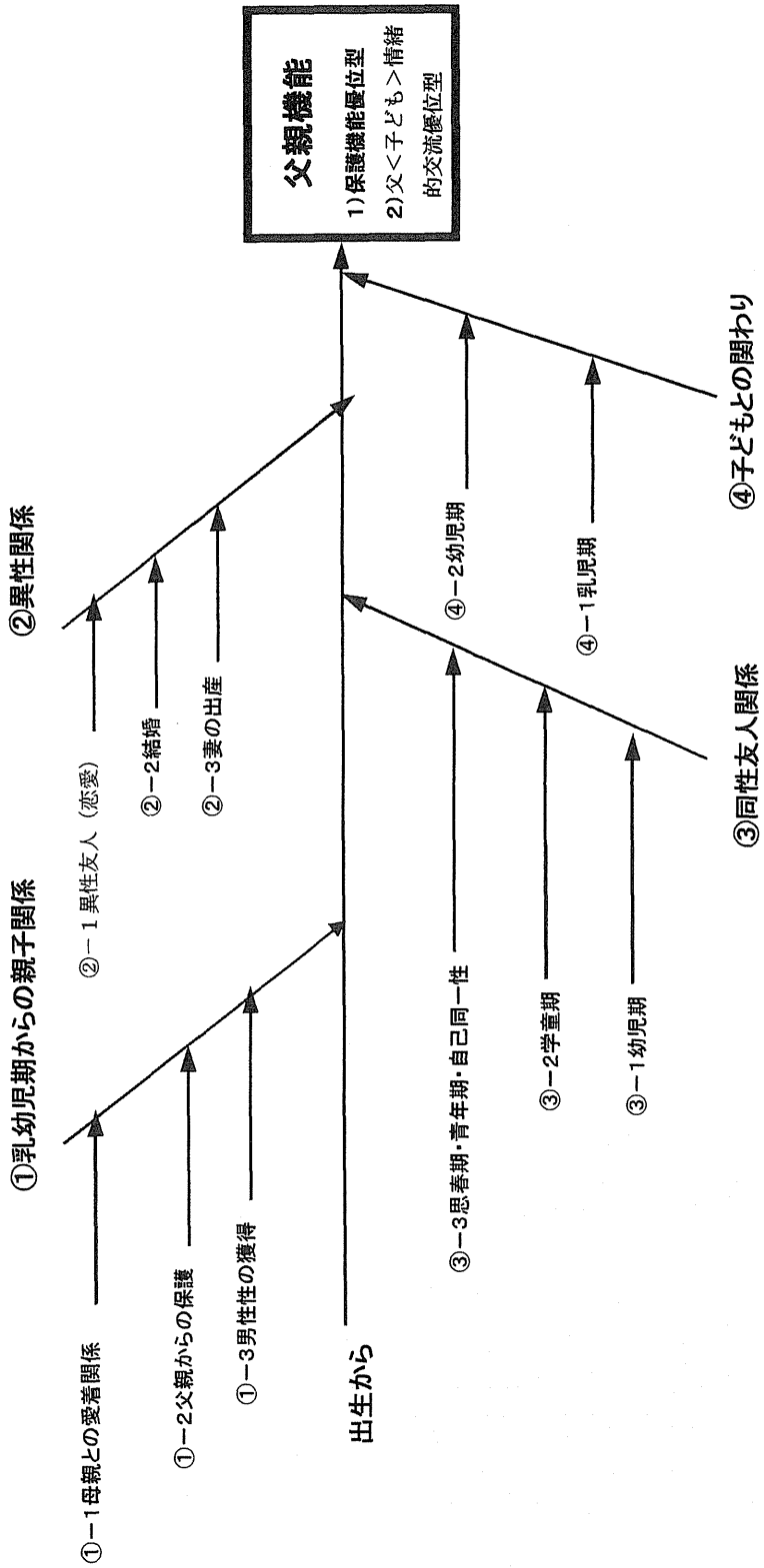

図11　父親機能の発達要因モデル図